

友人の教を受くるは、賢き人の用心する所なり、何となれば何人も前方を見れば後方を見る能はず、上を見れば下を見る能はざればなり。

一、即身即佛を悟るものは、災厄を知らず。

蓮臺上の佛を佛とのみ思ふべからず、拜む各自の身もまた佛と観すべし、ラスキン曰く各自に各自を守る三體の神宿る、高尚なる思想、善良なる行爲、不撓なる行爲に悪事のあるべき筈なく、撓まざる勤勞をなす人に窮乏はなき譯なりされば天に向ひ社寺の神佛に向ひてのみ、家内安全、息災長命、家業繁昌、怨敵退散を念するは、未だ悟れるものとは云ふべからず、身即佛と悟り佛心佛行を心掛くるものにして、始めて災厄を知らざるに至るべきなり。

一、稼ぐに追付く貧乏なし。

一、衛生家に病魔は近かづかす。

一、禍は笑ふ門を窺はず。

一、疑心は暗鬼を生み、迷ひは妖魔を見る。

明智なれば疑はず、悟れば迷ふ所なし、されば人は皆、智を研き、道に悟るゝの工夫あらざるべからず。

一、安心に悪魔の手はとゞかす。

大悟徹底と行かずも、所謂御安心を得れば、誘惑に心動くことなく、利慾に目くらむことなく、死生に氣慮することなし、不動、不迷、不亂なれば如何なる悪魔も乗するに手段なしとなり、之れ人に信仰なくば骨なきが如しと云ふ所以にて、宗教を粗略にすべからざる所以なり。

一、門地を誇りとするは芋の如し、何となれば貴ぶべきものは地下にあり。

之れ獨立自營の貴き所以を示すものにて、人皆茲處に悟らずば、世の辱めを受くるの厄ありと觀念すべきなり。

一、人格は光明なり、人仰ぎて之を見る。

光明の前に魔は住まず、貴ぶべきはそれ人格の向上なる哉。

心こそ、心まよはず、心なれ

心に心、心ゆるすな

## 二、家内の厄拂

一、和は齊家の礎、笑は圓満なる家庭の相なり。

父子相和すれば四季春の如く、夫婦相和せば天國の如く、兄弟相和せば自ら樂園をなす、一家の和する所、風波なく、疑惑なし、之に住むもの、自ら心のどかに、氣持よく、歡笑の聲絶ゆる時なし、之れ圓満なる家庭の相にて、災厄の惡む所、病禍の恐るゝ所なり。

一、秩序は齊家の柱、清潔は息災なる家庭の特徴なり。

父子、夫婦、兄弟、主僕の間には秩序あるべきは勿論のこと、家財、道具の置き方にも秩序あり、家業、家事にも秩序あれば、家内の整理が行届きて、亂雑に流るゝことなし、此間掃除洗濯を怠らず、常に清潔を旨とせば悪性の微菌も住む所なく、汚き塵垢の生ずる所もなければ、従つて病氣にとり付かるゝことも

なくてすむなり。

一、收支を明かにするは齊家の屋根、勤儉は安樂なる家庭の常業なり。

收支明かならずして暮らすは、暗中を往くが如し、跌ずかざるは僥倖なり、収入支出を補ふて餘りなければ、此處に懸命の勤勉が出来、支出収入に伴はざれば思切つた儉約も出来るものなり、收支を明かにしての勤儉でなくば、思はぬ汚名を受くるに至ることもあり、收支を明にしてよく勤儉せば、債鬼を退治し貧乏神を近寄らざらしめて、富貴安樂なるを得、故に記帳と收支の費目に注意すべきは、安樂を希ふものゝ常業たらざるべからず。

一、職業を有するは齊家の壁、分度を立つるは繁昌する家庭の法則なり。

事業は生計の母なり職業あればこそ勤勞も出来、収入もある譯なり、今人往々職業の種類によりて損得がある如く思へど、そは大なる誤解なり、損得は愚か貧富、貴賤の別は、皆分度を立つると否とによるものなるを悟らざるべからず利得大なりと云ふ商家も、景氣に油斷して分度外に奢り不景氣に萎縮して分外

の業務に心を轉せば、何んぞ大なる利得を得べけんや、つまらぬと云ふ農家も分を守りて忠實業に服し、分度を立て、華を去り實に就きなば、富貴自ら至らん之れ皆人の悟るべき所なり。

一、辛棒は齊家の床、推譲は無事なる家庭の悟なり。

腹の立つのも辛棒で事なきを得、見榮を飾りたき根性も辛棒で後悔なさで済み尙一杯と云ふ所で辛棒すれば亂にいたらず、一時の恥辱も辛棒すれば取りかへの付くものなり、金は辛棒で出来、物は辛棒強き人の手に集ると云ふも、古來の諺なり、故に辛棒は思切つてなさでかなはぬものなれど、唯功は人に譲りよき方に人を推し、世の哀むべきに同情し、公共の事には進んで寄附する量見なくば、思はぬ氣苦勞をなし、不測の災にかゝることあるものと知るべきなり。

一、高尚優美なる娛樂は、人格を高尚にす。

かけ事、色事、飲む事、及び之が伴ふ娛樂は惡魔の使用する武器なりと云ふ、

注意すべきことにこそ。

一、秘密ある家庭は暗黒なり。

惡魔は暗黒を好むとかや、されば何事も公明を賞び、父子、夫婦、兄弟の間、必ず秘密なき様に心掛くるは、厄除、魔除けの秘訣と心得べし。

一、友を見て其人を知るべく、出入する人を見て其家庭を知るべし。

一、墓地は家庭の裏面なり。

齊家の墓地に狐は住まず、繁昌せる家の墓地に草は生へすと云ふ、三考九思すべきことなり。

一、慈悲深き處に義人集り、非道の家に魔來る。

一、積善の家には餘慶あり、積不善の家には餘殃あり。

一、家憲ある家は亂れず、家訓を守る家に迷なし。

君子は禍を變じて福となし

小人は禍を恐れて禍を避けず

### 三、處世の厄拂

一、思想は高尚に、實行は卑近よりすべし。

微菌は汚き所に生じ、災厄は下劣なる思想の下に生ず、故に思想を高尚に持つは、厄拂の秘訣なるが、唯だ思想のみにて實行伴なはざれば空想になり了るべし、人を救はんと思はゞ途に落ちたる硝子片を拾ひ除け、世を益さんと思はゞ道の窪に土盛るの行あるべきなり。

一、行爲は善良に、態度は謙遜なるべし。

善良なる行爲に仇なく、敵なし、されど之が爲に心驕り、氣太くなり、人に誇り、自慢すれば災厄直にいたるべきなり、諺に曰はずや、出る釘は打たると、察せざるべからず。

一、勤勞は分外に、消費は分内にすべし。

勤勞は民生の根元、産物の基礎なり、故に出來べき限りの力を濫がざるべからず、消費は消費なり、慎まざれば利益も消へ、傳來の身代も空しくなるべし、

戒めざるべからず。

一、計畫は遠大に、注意は綿密なるべし。

其日暮しは人類の耻辱なり、遠き前途を達觀し、遙かなる將來を見透して、計畫せば、晩成の利器たるを得べし、十願ひて半分適ふと云へば、大なる計畫ほど得る所多かるべきは理の當然なり、されど細微に注意せずば、如何なる計畫も書餅となるべきなり、思はざるべからず。

一、餘裕は多大に、貯蓄は些少よりすべし。

忍耐も、辛棒も、餘裕なければ能はず、心に餘裕あれば齷齪せず、氣に餘裕あれば煩惱せず、財に餘裕あれば吝せずして、暮らし得べし、されど餘裕は自ら出來るものにあらず、修養の功を積み、厘毫を積む心懸ありて、始めて出來るものなるを知るべきなり。

一、人生は戰場なり、善惡共に戦はざるべからず、而して奮闘は最善の武器なり。

一、暗夜を往くに燈明を頼むべく、一寸前は暗黒の世である、此の世を渡るには、信

用と智識とを頼むべし。

一、攻めざるを恃む勿れ、我に攻むべからざるものあるを恃め、來らざるを恃む勿れ我に待つものあるを恃め、とは孫子の兵語なり、また處世の秘訣ともすべし。

一、君子は榮譽を内に求め、小人は名利を外に求む。

自ら修養して其人格を高めば、招かずして榮譽來る、小人之を悟らずして、人を怨み、世を憤る、愚も亦甚だしと云ふべし、南州翁の遺訓に曰く、天を怨みず、人を咎めず、事ならざるあらば、たゞ我誠の足らざるを思ふべし、と、至言と云ふべし。

一、私慾は處世の障害なり。

欲深ければ情深からず、私利に抜け目なければ公益に抜目のあるは、己むを得ざるものなり、之皆敵をつくり、禍を招くの法なり、慎しまざるべからず。

一、失敗は世路の峻坂なり、失望落膽せば成功の山には登れず。

一、天は何物をも人に與へず、たゞ其人の働きに與ふるものなり。

心こそ、心まどわす、心なれ

狐狸も天狗も、心から出る

#### 四、厄拂雜門

一、借金は恐るべからず、無謀の借金は債鬼と化すべし。

一、表裏は物の數なり、徒に向上を知つて、向下すべきを知らざるは、十全の想にあらず。

一、勤と儉との三段を、心得るものは、其功德を全ふすべし。

身體のみを勞するは勤の下段なり。

智腦の働きの加ふるは勤の中段なり。

徳行の働きの添ふるは勤の上段なり。

物の浪費を慎むは儉の下段なり。

時の空過をせざるは儉の中段なり。

心遣を妄にせず、煩惱に苦まざるは儉の上段なり。

一、用に用心するものは、乏しきを知らず。

信用は世間を廣くす。

應用は融通を圓滑にす。

利用は物の効能を大にす。

一、油斷は大敵と思ふべし。

坂田金時曰く、天下一の剛たらんと欲せば天下一の臆病者たれ、と。

二宮尊徳翁曰く、元日や、今年もあるぞ、大晦日、と。

清水の俠客次郎長曰く、私は案外臆病で、蚤一疋飛んで出るも、身構をなす、と。

曰く、獅子が百獸の王たる所以は、小敵なりと侮らず、何者にも必ず渾身の勇を振ふにありと。

一、天下の三道とは如何、曰く禽獸の道、曰く人の道、曰く神佛の道之れなり。

禽獸の道は、我がために他を犠牲とする者也。

ちう／＼と、なげき悲しむ、聲聞けば。

鼠の地獄、猫の極樂。

ちう／＼と、なげき悲しむ聲聞けば。

雀の地獄、鷹の極樂。

人の道は、人と喜怒哀樂を共にするものなり。

我が好きは人にも振舞ひて共喜びをなし、己れの欲せざる所は、人にも施さずして、面白からぬ思をせぬ心懸けが人の道なり。

神佛の道は、他のために己れを犠牲とする者なり。

身を殺して仁をなす。

君父のためには生命財産を差出しても、惜しと思はず。

向上は人類の權利と悟らば人皆神佛の道に入るべき覺悟なかるべからず、之れやがて惡魔、厄病神に超然たるを得るものなり。

一、尤も近きもの、尤も遠き隔りありと、思へば人の目は、千里の遠きを見ると雖も

其眉毛を見ること能はざるなり、されば人を見る前に己れを眺め、世を見る毎に自分を顧み、事を見る折に自身に反省すれば不平なく、間違なく、煩悶なくて、世渡りは出来るべし、世間往々己れの身分を辨へずして、人を憤り、己が力を計らずして、世の無情を嘆じ、己が才智を省みずして事のならざるを怨むもの多し哀れにも亦氣の毒な事ならずや。

一、情は重んずべし、されど法には勝てず、法は貴ぶべし、されど理には勝てず、されば何事も道理の上になすべきなり。

一、物云へば、唇寒し、秋の風。

妄りに多言すべからず、贅辯なるべからず、卑猥の言語あるべからず、口は災の門と知るべきなり。

一、行ひは各々人が己の姿を現はす鏡なり。

容姿は各人の心を現はす鏡なり。

誰れも皆、心をみがけ、人を知る、君が鏡の、曇りなき世に。

一、世の中を、渡る道はと、人間は、慾の淺瀬を、行けと答へん。

一、山を抜く、力はなくとも、天地の、動くは人の、誠なりけり。

山中ノ賊ハ征シ易シ。

心中ノ賊ハ征シ難シ。

### 日本の兒等に

ポールリシャル

曙の子等よ、海原の子等よ、花と焰との國、力と美との國の子等よ、聞け涯し無き海の諸々の波が、日出づる諸子の島々を、讃ふる榮譽の歌を。

諸子の國に七つの榮譽あり、故に亦七つの大業あり

さらば聞け其七つの榮譽と七つの使命とを

一

獨り自由を失はざりし亞細亞唯一の民よ。

貴國こよ自由を亞細亞に與ふべきものなれ。

二

曾て他國に隸屬せざりし唯一の民よ。

一切の世の隸屬の民の爲めに起つは貴國の任なり。

三

曾て亡びざりし唯一の民よ。

一切の人類の幸福の敵を亡ばすは貴國の使命なり。

四

新しき科學と古き智慧と歐羅巴の思想と亞細亞の思想とを自己の内に統一せる唯一の民よ。

之等二つの世界來るべき世の之等兩部を統合するは貴國の任なり。

五

流血の跡なき宗教をもてる唯一の民よ。

一切の神々を統一して更に神聖なる眞理を發揮するは貴國なるべし。

六

建國以來一系の天皇永遠に渡る一人の天皇を奉戴せる唯一の民よ。

貴國は地上の萬國に向つて人は皆一天の子にして天を永遠の君主とする一個の帝國を建設すべき事を教へんが爲めに生れたり。

七

萬國に優りて統一ある民よ。

貴國は來るべき一切の統一に公獻せん爲めに生れ又貴國は戰士なれば人類の平和を促さんが爲めに生れたり。

曙の子等よ、海原の子等よ、如斯は花と焰との國なる、貴國の七つの榮譽と、七つの大業となり。



## 進む世の中

人間が生を愛し、生に執着し、生を欲する所以は、希望を有し、目的を抱き、理想を持つて居るからである。それ故に、希望と目的と理想とは、人を生かしむる所以のものであり、人をして生に力つける所以のものである。

希望や目的や理想に豊かであり、富むでをる若い人々は人生の花と云はれて居る。子供より若い人に進むを、上り坂であると解釋し、元氣は年を追ふて盛になる。之に反して老人になる事を、下り坂と唱へて、元氣は衰へるものと見做して居る。それ程に、希望や目的や理想は人を元氣にし、活潑にし、旺盛にするものである。故に年若しと雖も、確たる希望や目的や理想がなければ若年寄と侮られ、老齡の人と雖も、大なる希望や目的や理想に生きるは、壯者を凌ぐの概があるものである。それ故に年を重ねて、新なる希望や目的や理想を抱きて生くるは、眞の若がへり法である。

人を生かしむる、生に力つける、生に執着せしむる希望や目的や理想が加はり行く

が、進む世の中である。自動車が出来れば、自動車に乗らんとする希望が生れ、飛行機が飛ぶ様になれば、それに乗つて飛ばんとする目的が立ち、ラジオが流行して來れば夫れを備へて愉快なる生活をせんとする理想を抱く様になるのである。其處に進む世の中の特徴があり、面目があるのである。

だから、昔の人に比して今の人は、多くの希望や目的や理想をもつ事になる。其處に進む人の面目があり、進む世の中に生きる人の權威もあるのである。

昔は差別的の制度が嚴存した爲めに、或る階級の人は宿命的にならざるを得なかつた。それ故に

上見れば及ばぬ事の多かりき

笠きてくらせ世の中の人

と詠むで、下見て自己の運命にあきらめる事を教へたものである。故に當時の人々は今日の人の如く元氣よき生活、活潑なる活動はしなかつた、又た出來なかつたものである。今は之に反して、四民平等となり、何人も機會均等を得ざれば満足せぬ事にな

つた。従つて宿命的の觀念は去り、あきらめる思慮もなくなつて仕舞た。それ故に、當年惨じめな境遇に置かれた労働者や小作者の如き人程、多くの希望や目的や理想を追ふ事になつて來た。

斯くの如き世の中には、幸福は、希望が充たされる人に感せられ、目的が達成する場合に認められ、理想が實現した時に痛感されるのである。故に、希望が充たされず目的が達せられず、理想が實現しない時には誰れでも不幸を感じる事になるは當然の事である。今夫れ惨じめな生活をして居つた人ほど、多くの希望や目的や理想を持つが、それが容易に充たされぬ、達成せぬ、實現せぬ所よりしてそれ等の人の間に、不平の聲が起り、愚痴となり、やがて怨嗟と化し、遂に呪咀となり、果ては直接行動を敢てする事になる。

米を作らんと欲せば藁をも作らねばならず、瓜を得んと欲せば蔓をも取らねばならぬが如く、進む世の中を迎へんと欲せば、面白からぬ社會現象をも覺悟せねばならぬが、人の社會である。唯、然し人のみは向上するものであり、社會を改造する力が興

へられて居るが故に、進む世の中の副産物である不幸の人を出さぬ事に工夫し、努力せねばならぬが人である。

社會政策が高唱さるゝはそれが爲であり、社會的施設を急務とするも亦それが爲である。比較的幸福の人が不幸の人に同情し、必要以上の餘裕を不幸の人に捧げる事の必要も亦それが爲である。

進む世の中を理解し、因つて生ずる所を認識し、それに處するの道を講ずるを得ば不祥なる事件は起らぬ事になり、不吉な現象も生ぜぬ事になり、面白からぬ出來事も見ぬ事になる。如斯して、共存共榮の社會を作り、各其の志を遂げるを得て人生を樂しむ事にするが、進む世の中の進むだ人のなすべき事である。夫れには都鄙の別なく市民と農民との差別はないのである。目醒めむ哉、悟らむ哉。

## 文 明 人

人は常識で、人を善悪の二種に區別する。如何なる人を善人なりとするや、又た如何なる人を悪人なりとするやは、洋の東西を別たす、時の古今を論せず、一致して居るものである。

悪人と認むるは、必ず奪ふ人である。懐中物を奪ふスリ、寢込を襲ふて財物を奪ふ盗人、人の生命を奪ふ人殺し等は、何時でも、誰れでも、悪人なりと解釋する。其の悪人は如何なる人かと研究すれば必ず懈怠の人であり、真面目な労働を欲せぬ人であるが常である。それは、それ等の人を懲罰する方法として、規律的の勞役に服せしむる事に徴して分るのである。一家に於ても、怠けものは憎まれる、働かぬものは悪口を云はれる、甚だしきに於ては呪咀的となるものである。それは、町村に於ても更に廣き社會に於ても同様であるのである。

善人と認むるは、必ず與ふる人である。與ふる人はくださる人である、先生は教へ

て下さる、役場の人は世話して下さる、技術員は指導して下さる、隣のお婆さんはお菓子を下さる、凡て下さる人は善い人と解釋されるが、世の常である。それ等の人は真面目に働く人であり、労働を厭はぬ人である。それは一家に於ても働く人ならば、必ず款ばれ、感謝もされるものである。之を町村に徴しても社會に付て見るも同様である。

如上を嚴肅に意識するが文明人であり、其の意識によりて社會の實際を正しく批判するが文明人である。故に社會組織でも、制度でも、立法でも、政治でも、働く人が歓迎されずして反つて不幸な境遇に置かれ、働く人が感謝されずして今も昔も同じ様に惨じめな地位に置かれては、黙視する事が出来ぬとするは文明人である。それ故に今や政治上に於て普選が實行さるゝ事になり、立法も働く人の權利を擁護する事になり、制度も働く人に有利になりつゝありと雖も、尙ほ物足らぬ心持がする。此處に文明人と意識する人々の特別の努力と誠意とが現實にならねばならず、又た文明人であるべき一般の人々の理解と協賛がなければならぬのである。

労働者や小作者は、今や等しく文明人と意識してゐる筈である。而も現今の社會制度に直面した時、餘りに傳統的の事が多い事に惨じめな自己を見出すであらう。それが憤慨の種となり、悲憤の因となり、遂に労働運動を形作り、小作争議ともなるのである。彼れ等の兇暴に因る事であり、世を憚らぬやり方は惡むべきもあるが、蓋し文明人と意識する人の當然の措置なりとする。

それ故に、お互に働く人の環境をよくする事に努力し、働く人をして前途に光明を認めしむる施設をする事に盡力し、働く人の働き易き世界を作るべく皆が働く事にせねばならぬのである。働く爲には奢侈と贅澤とは、全く無用の事である。それ故に如何なる人も奢侈に類する事や贅澤と見らるゝ事は、斷じてせぬ事にすべきである。如何に經濟上に餘裕がありても、食ふに困らぬ人でも、身分相應の働きをして、働く人同志の世界を作るを得ば、都鄙を論せず榮ゆる事になるのである。興隆する國家も、彌榮の社會も、平和な天地も、勤勞の齎らす結果であると、意識し味識するが文明人であるのである。

## 自由の民

文明人は、自由の貴い事を知る人である、故に自由を愛する人であり、自由に捧ぐる人でもある。

昔堯の民は、日出て、耕し、日入りて息ひ、田植へて食ひ、井を鑿つて飲む、帝力もそれ之を如何にせむやと、歌つたと云ふが、自由の境遇に在る農民生活を謳歌し嘆美したものである。

孟子は曰く、天下の廣居に居り、天下の正位に立ち、天下の大を行ふ、志を得れば民と之に與り、志を得ざれば獨り其の道を行ふ、富貴も淫する能はず、貧賤も移す能はず、威武も屈する能はず、此を之れ大丈夫と謂ふ、と云つて居るが、此の境遇に立ち得るものは獨り農民あるのみとする。

何物よりも必要な食糧の生産にいそしむで、自他を養ひ得る農民は、如何に強いものであるかは、米騒動に超然として居る事の出來た事に徴して分る。印度を印度人

のものにせんとして、國民を指導しつゝあるガンダーが、職業多しと雖も、幸福を人に與ふる職業は唯農業あるのみである、と教へて居るは、此消息を悟らしめんが爲めである。

如何に偉たそうに見へても、月給取は、或は時間で縛られたり、規則に制せられたり規律に囚はれたりして、自由のない人である。不自由なる點に於ては、女郎の境遇と大差ないものである。全く官吏や公吏は、自由を犠牲にして奉公する所に、敬意を表する價值があるのみである。それ故に自由の民は、彼等のけなげな精神と其の奉公振りに同情して、官公吏優遇を説くのである。

自由の地位にあるものは、天下の廣居に居るものであり、自由意志によりて行動するものは、天下の正位に立つものであり、自由の活動をなすものは、天下の大道を行くものである。其處に誇りを感じ、其處に安住し、其處に感謝して、天職にいそしみ何物にも犯されず、何事にも迷はず、毅然として立ち、泰然として居るものは、そうして行き得るものは、唯農民あるのみであるとす。

農民をして此處に悟らしむるは、農民指導の目的であり、農民が此處に悟らねばならぬは、農民が自己を救ふ所以の道である。

舉世滔々乎として、迷惑の徒のみ、日に多きを加へつゝあるは、聖代の恨事である特に農民たらねばならぬ、農村の青年處女が此處に思ひ到らずして、或は形に囚はれたり、或は虚榮に驅られたりして、農耕の道を避けんとするは、哀はれにも亦情ない事の限りである。

農民生活こそ眞の自由生活であり、農村生活こそ誠の自由境に居るを悟らば、何物をも捧げる事が出来ねばならぬ筈であり、わが愛人を愛するが如く土地に親しむ事が出来ねばならぬ筈である。それが出来ないので農民は、畢竟迷惑の民であり、未開の民である。

米國を獨立せしめ、合衆國民を自由の境に導いたジョージ、ワシントンは、大統領を退職するや、直にベルノン丘に農場を營む農民生活に入り、國民に

凡百職業の中で、最も貴く、最も大切であり、最も趣味あるものは農業である。

と教へた事は、眞に尊い教訓であり、賢明なる教訓である。

古人は、汝自身を知れと謂つて居るが、それは今日の農村青年處女に與られしものと見るべきであるとする。

## 文 化 人

よりよき性格をつくり、よりよき社會をつくり、よりよき世界をつくるは、唯人類にのみ與へられた特權である。人類の向上性、追進性は、人類のみの誇りである。その性格を發揚し、利用して進むが、即ち文化人である。

人は道德をつくり、宗教をつくり、法律をもつくるが、向上が目的であり、追進が目標であるのである。改良、進歩、發達と云ふも、よりよく進む事であり、其處に文化の本質があるのである。

向上には努力を要し、追進にもそれを要し、改良、發達、進歩にも亦それを要する。それ故に文化の本質は努力であり、勤勞であり、活動でもある。従つて文化生活は、

努力の生活であり、勤勞の生活であり、活動の生活である。踊つたり、はねたり、飽食暖衣、逸居の生活には文化の影もなく、匂におひもせぬのである。それ故に、美衣、美食、美居の生活は文化生活でない。汗に浴し、泥にまみれて、ひたすらに向上の一路に進み、向上を追進する所に、眞の文化生活があるのである。

國民をして生活に安定せしめ、更によりよき生活に誘導し、不幸を感せしめない爲めに、暗き惨じめな思ひより脱出せしむるために、自己を捧げ得る人、小なる我を棄て、大我に生き得る人、短かい生命を投出して永遠の生命をもつ國家社會に盡瘁する人、六尺に足らぬ小軀を憂國愛民の大義に投げ込む人、身を投じて仁をなす人、他のために己を犠牲にする人は、文化人の精華であるのである。

されば、風雨と戦ひ、寒暑と闘ひ、糞水を掬して、泥土に塗れて働き、以て國民の生命を保證する農耕の人、粗衣粗食を物ともせず、額に汗して日やけを厭はず生産にいそしむで、物資を供給する事に日も維れ足らざる人は、眞の文化生活をなすものである。境遇の美化に思ひをこらし、環境の改善に精を盡くし、社會の善化に渾身の力

を捧ぐる人も、亦眞の文化生活をなす人である。誰か奢侈贅澤の生活を文化的なりとするや、遊山見物に消光の人を文化的なりとするや、又た酒地肉林の人を文化的なりとするや、彼等は文化を傷け、文化を破り、文化を汚がす罪惡の人であるのである。

農村は交通の便がよろしくない、それをよろしくする努力の中に文化的活動があり、文明の利器に恵まれない、それに恵まるゝ様にする苦心慘憺たる所に文化的努力があり、寂寞の天地を化して靜思冥想に好適の地とする所に文化的工夫がある。故に都市生活よりも寧ろ農村生活が文化に好適であり、市民生活よりも更に農民生活に文化を味職することが出来るとする。

天地の力は偉大であり、天地の奥はきはむる事が容易でない。天地の力に翼賛して働くが農民であり、天地の無限に抱かれて働くが農民である以上、農民こそは、凡百國民の中で尤も賢明であり、巧者であり、理解の人であらねばならぬのである。此處に目醒むる事能はず、それに自覺が出来ずして、誰れでも出来るが農民の働きであり馬鹿でもやれるが農業であるとするが、一切の誤解謬見の因であるのである。

古語に、自ら悔つて人之を悔る、と云ふがある。今日の農民正に此處に反省すべきであり、自覺すべきであるとする。今日の所謂、農村の疲弊、農家の困憊は農民が自ら悔るの結果なりと、正に悟るべきである。

### 農業の價值

金が尊いか、生命が尊いか、は明瞭にすべきことである。金を奪ふた人は罰せられるゝが、やがて許さる、然し生命を奪ふたものは、死罪に處せられて再生は許されぬが、凡ての國を通じての法である。されば、金よりは生命は、尊いと見られて居ると解すべきである。

奪ふ者あり、金を出せ、然らざれば汝の生命をとるぞと云へば、金を出すから生命を助けてと云ふが、世の常である。されば、金よりも生命が尊いと知れるが人の常識である事が分るのである。

學者は生産を分つて三種として居る。一に曰く、新に生命を作り出す事。二に曰く

新に價値を作り出す事。三に曰く、新に効用を作り出す事。がそれである。三種の生産を営み得るは、唯農業のみでありて、商工業は、價値と効用との生産に過ぎないのである。故に農業は完全なる生産を営むものであり、生命の生産が其の特徴であり其の面目であり、其の價値であるのである。

人の生命は生命を以て維持され、繼承さるゝものであり、無機物を以ては到底養はれざるものである。それ故に、生命を保證し、生命を永遠にするものは、農業あるのみである。農業は生命を生産するが故に、農業には生命がある、従つて農耕に安ずる人は比較的長命であり、農耕に忠實なる家は永遠に存続し、農業を重んずる國家は永遠の生命を有つのである。其處に犯すべからざる、而も偉大なる農業の價値を見る事が出来るとする。

商工業も大切であり、大事であるが、其處には生命がない、金儲けは出来るかも知れぬが、生命を犠牲にせねばならぬ事がある。内外を問はず、古今を論せず、商家に三代なしとの諺があるが、偶然でないとする。

世は開けて、職業は多くなる、而も生命の生産は農業に限られて居る。金儲けの仕事は殖へて来るが、生命の生産をなすものは、絶対に出来て来ない。生命の生産は唯農業にのみ與へられし特權である、其處に農業の絶對的價値があるのである。

學術は進み、承術も進むで来る今日、農業の經營を巧みにすれば、求めずして利益も上つて来る、儲けもある。されば、賢明なる農業經營をやれば、生命と金とを得る事が出来る、所謂一舉兩得を見る事も出来るのである。其の道を究めず其の理を辨へずして、徒に農耕の形に迷つたり、世人の誤解謬見に制せられて、農業を賤しみ、農民生活を侮るは、其の愚や及ぶべからざるものである。而も、意識不透明にして、農業の價値を知る能はざるは、其の愚や惑むべきである。

人智開らけ、人は賢くなるといふ世の中に、分り易きが分らず、理解されべき事が理解されないのは、正に聖代の恨事であり、文明の恥辱でもある。農民が賢明になり農民が社會上の地位を進め、農民が機會均等を得んには、先づ農業の價値を知り、其處に誇りを感じ、進むでは歡喜感謝の活動が出来ねばならぬ。如斯して、農民は權威



ある國民としての自己を見出す事が出来るとする。同時に、南洲先生も乃木大將も、野に下りては農耕の人となれる所以も分り、我皇室におかせられても、農業のみを直營する、所以も分り、従つて、農業に安心が出来る事になるのである。

古語に、最も近きもの最も遠き隔あり、とあるが、己を知る事は最も大事であり、知る事の先決問題である事を悟らねばならぬとする。

### 貴き生き方

恐るゝ事なき境遇に立たんと欲せば、何人も正直であらねばならぬ、正を踐むで恐るゝ勿れと、云ふは古今一貫の教訓である、剛健は興隆の因であり、彌榮の素であるが、それは質實なる生活に伴ふべきものである。又た何時でも、何人でも忘れてならぬ事は、必要といふ事である。必要以上の生活は、奢侈となり贅澤となりて、世を毒するものであり、必要以下は、人をして不足を感せしめて、不平愚痴に陥らしむるものである。

農業の勤勞は、絶對正直を要するものであり、一點の虚偽を挟む事の出来ぬものである。又た農業勤勞は修飾を要せぬものであり、原料の生産に従事するものである。又た農業生産は生活に必要なものゝ生産でありて、あつてもよくななくてもよいてふものは作らぬものである。それ故に農業の勤勞は、武士の務め其の儘であるが故に、武士道の相續者であり繼承者であるものは、農道に生くる農民であるとする。實際、正直は農民の面目であり、質實は農民の素質であり、必要は農民の生産の特徴であるのである。

舉世滔々乎として虚偽の生活に陥り、今や益々其の深みに沈まんとして居る。其處に目醒めて、自己を救はんとするものは、此處彼處にあるが、彼等は今更の如く農業に甦らんとするは、偶然ではないとする。今日は虚榮に驅られ、囚はるゝ生活が流行して居り、其の全盛とも見られて居るが、其の繁に堪へず、其の惱みに忍ぶ能はずして、其の境遇より脱せんとして居るもある。彼等は申し合はせた様に土に復らんとし土に親しまむとして居るも、亦面白い現象である。今の人は無用の物に所有慾を逞ふ

し、不必要のものに憧憬し、ありてもなくてもよいものゝ生産に、貴い時間や人力を費して居る。それ丈に必要なものに不足を感じ、有用の物に缺乏を感じ、なげねばならぬものゝ生産を空虚にして居る。此處に目醒めたものは、何れも農業の復興を念ふて居るも、亦當然の歸趨なりとする。

自然の崇高なるに今更憧憬の眼をそゝいだり、高山幽谷にキャンプ生活を試みて喜むんだり、原始的生活を高調したりする、新しい傾向は、虚偽に愛憎が付き虚榮の繁累に堪へず、無用の生き方に、聊か目醒めて來た現象である。

くりかへして云ふ、偽りなき正しき勤勞の出来るは農業であり、虚榮に遠ざかり眞實の活動をするは農業に限り、必要の生産にのみ働き得るも、亦農業である以上、最も貴い人の生き方をなし得るは、唯農業の生活にのみ許さるゝ事であるとする、されば黙つて大地を相手に、天地の力に翼賛して生産にいそしむ人生は最も貴い人生であり、大地に親しむで、靜かに生命の生産に働く事を樂しむで居るも亦貴い人生である故に、農民生活は貴い生き方をする事であり、農村生活は貴い人生を送るに最も好適

なりとする。

昔堯の民は、日出てゝ耕し、日入つて息ひ、田を植ゑて食ひ、井を鑿つて飲む、帝の力もそれ之を如何にせんや、と歌ふたとあるが、全く自由に目醒めた人でなければならぬ言葉である。自由は絶對であり、従つて貴い。それ故に文明人は、自由の貴い事に目醒めて自由を憧憬し、自由を好愛し、自由には何物をも捧げて吝む所がない。自由の活動は農民の活動であり、自由を享受し得るも、亦農人の境遇である。此の意味に於ても、農業にいそしむは貴い生き方であり、農民生活は全く貴い生き方とする事であるのである。

## 愚の罪

哲人は、愚は罪なり、悪なり、と謂つて居るが、古今一貫の眞理である。

愚ならば己をあやまり、人をもあやまる事が出来る。愚なるが故に、出来る事が出来ずなり、分るべき事も分らずになる、愚のために、失敗したり、だまされたり、誘惑されたりする。愚は、不自由の因をなし非道の行爲の素をなす事は、世にある多くの實例である。

昔は、愚の故を以て罪を免れた事もあり、許されたものであるが、生理的に愚ならざる限り、先天的に馬鹿でない限りは、今日は愚なる故を以て、罪惡は許されぬのである。

世の中に、一番貴いが農業であり、一番大切なものも農業であり、一番趣味のあるものも農業であるが、それが分らぬ爲に、農業にいそしむ能はず、農業に安んずる能はず、農業に楽しむ能はざるは、農村疲弊の因であり、農家困憊の素であるは、蓋し

動かすべからざる眞理なりとする。

又た農業は天地を相手にして働くものであり、天地の力に人力を加へて生産にいそしむるものである。然るに天は不可解であり、地も亦不可解である。今日は學術日に開け、人智日に進むと雖も、天氣の豫報は明日の分しか出来ず、それも間違が多いのである。地震はあつて後大小強弱を測定し得るも、未だ之を豫知する事が出来ぬ。故に學術は天地の一部を知るに過ぎず、人智は眞に天地の一部を知るに過ぎないものである。それ故に、天は不可解であり、不可思議であるとするが正當であるのである。

不可解の天地を相手にする人は理解の人でなければならず、不可解の間を開くは理解の式でなくばなのである。故に、天地を相手にして働く、農人は最も理解の人でなければならず、賢明の人でなければならず、慧才の人でなければならぬのである。而も長い間農業は、馬鹿でも出来ると解釋され、低能の人でも出来る業と見做され、知慧の足らぬ人でも出来ると思はれたものである。農業に従事せぬ人は兎に角、農業

にいそしむで、甘い辛いの體驗をして居る人すら、此道理を辨へぬで居るもある。愚なる哉である、哀むべき哉である。

理解のある人も、理解なき人も、共にやるは農業であり、賢者も愚者も共に抱容するは農業である。然し理解ある人は面白い農業經營をやり、理解なき人は不快不安を抱く農業經營をやらねばならぬ事になる。賢者は喜び、愚者は悲しむ結果を見るのである。農村を通覽して、何處にも成功の人があり、成名の人がある。それ等は皆理解の人であり、賢農である。或は合ぬと愚痴を云ひ、引き合はぬと罵り、儲らぬと自ら悔るの類は皆理解なき人の經營であり、愚農の結果であるのである。

自ら悔つて後人之を悔る、といふ古諺がある。今日の農者は餘りに自ら悔るものであり、自分を馬鹿にするものである。それ故に、人之を悔り、國家も社會も亦之を悔るは、豈に偶然ならんやである。

それ故に先決問題は、農民自ら賢明になる工夫をする事であり、理解ある民になる事である。賢明なる農民の前には不快不安の農業はない、理解ある農人の前には不經

濟の農業は出來ぬものである。之が分つて來れば、賢い頭の子は百姓をさせべきであり、賢明な人は進むで農業に從來すべきである。今日の如く、われも人も、賢き頭の所有者を農村より奪ふて都市に送る事に夢中になり、賢明なる人ほど農村生活を忌避するが如きは百年黄河の澄むを待つと同様に、農村振興は實現しないものと観すべきである。

従來國家は、其の政治政策に農村を顧みず、農民を閑却して居つたのは事實である社會も亦、農村に對して冷淡であり、農民に對して冷酷であつたのも事實である。斯くの如きは、あるべからざる事であり、ありてならぬ事であるが、それがあり、それが事實であるは、悲しむべき事であるが、それは、盡く分る事が分らず、分らねばならぬ事が分らず、悟れ得る事が悟られなかつた爲めである。愚のいたす事であり、愚の罪である。

農村は國家の基礎であり、農業は基礎産業であるは、言ふも愚な話であるが、それが衰へ、それが振はずなるは國家の禍である。此の禍を除却せんために、凡百政策を

講じ、手段をとる事になつて來たが、最も必要であり、大切であり、有効であるは、愚の罪を恐れて、自己を賢明にする事であるとする。

## 震 火 の 影

### は し が き

關東の震災火難は言語に絶し、筆紙のつくす能はざる大慘事である、空前の悲凶事である。驚愕、周章、絶望、自暴に陥るも無理からぬ事であるが、さりとて萬國無比の神洲民族の體面を如何にせんやである。吾輩東奔西走して寧日なく、従つて考慮執筆の暇もないが、車中船室でかきなぐりたるものを綴りたるもの故。書きたい事も十分書けず、書き様も考へ通りにならぬが兎に角「震火の影」と題して出來たるものは、一瞥の價値もあるまいが、唯だ吾輩の、皇國と國民を思ふ至情を掬みて給はれば幸なりとする。(大正十二年九月)

## 災禍の教訓 (其二)

### 一、自然力の偉大なる事

人多き時は天に勝ち天定つて人に撻つと云ふが、近時人多くなり、懶巧になり何事も人力で出来ぬものがない様に考へ、或は天を征し、地を制するなど言つて、自然を憚らぬ振舞が多くなり、そうして仕事が深山になつて来た場合、今回の災禍は今更ながら自然力の偉大なるを悟らしめた。

### 一、自然力の公平なる事

貴い人も、賤い人も、富めるも、貧しきも、幼きも、老ひたるも、男も女も、同じ苦痛、悲嘆、脅威、不自由を嘗めさせられ、同じく裸一貫にさせられた。今更ながら自然に私なく、極めて公平なるものと痛感せしめた。恨む餘地もなく、小言を云ふ隙もない程に公平である事を直視せしめた。

### 一、生命の貴い事

非常に際しては上下の別なく、皆生命をとりとめん事に焦念し工夫した。生命が助りて安心し、喜悅し、祝福した。當時第一に求めしものは生命の糧である飲食物であつた、一個の握飯と金側時計とを交換したのもあると云ふが、今更ながら生命の貴い事を諒解せしめた。

### 一、必要の價值大なる事

衣、食、住は生活の物質的要素なれど、動もすれば必要の程度を超へざれば満足せぬ事になる。近時の流行は皆必要以上の要求であり、憧憬であり、煩悶であり、焦慮であつた。今回の災禍は人生に必要な價值を辨へしむるに遺憾なしである。餘計な物が邪魔になる事を知らしめた。

### 一、勤勞の功德の貴い事

罹災は平等であるが、勤勞に慣れた人、勤勞を苦にせぬ人は、當日から希望を以て働いて居る。働かざる人、働けぬ人、働を欲せぬ人は、失望、怨恨、落膽愚痴の中に世間から葬り去られつゝある。今更ながら勤勞の功德の宏大にして

貴い事を自覺せぬものはあるまい。

### 一、人情美の有難い事

人賢くなつて、社會は協同的でなければならぬ、共存共榮が人生であると、口では立派に言ふが、行爲は益々利己的となり、個人主義的となるものゝ多かりし場合、災禍に對する四方の暖き同情に、今更ながら難有涙を流がす者が多い物質文明もよいが、精神文明の人情美が更によいと云ふ事が誰れにも分つた。

### 災禍の教訓 (其二)

#### 一、都市中心主義の危き事

關東の災禍は恐るべく、就中東京、横濱の全滅した事は驚くべき事であるが、それよりも驚くべき且つ恐るべきは、之れで日本が潰れる様に考へた人がある事である。然し、政治、經濟、金融、學問、藝術其他の中心が都會である、加之人物も亦都會集中の國に於て、帝都と海外への門戸である横濱が潰れて

日本が潰れる様に考ふるも亦無理からぬ事である。都市集中の弊や恐るべく都會集權の結果や懼るべしとは、今更何人にも悟る事が出来た。

#### 一、國民訓練の不行届の事

非常の場合に秩序の亂るゝは無理からぬ事である、特に今回の如き震災に火難が來ては周章狼狽も當然であるが、今少し訓練があつてほしいと云ふは、獨り吾輩の感想のみではあるまいと信ずる。つまらぬ宣傳に引かゝつたり、善惡邪正の判断が出来なかつたり、風聲鶴涙に驚く様な事では、如何に考へても大國民の襟度ではない。何人も我國民が平素の訓練を缺いて居り、不行届であつた事を認むると同時に、こんな事では駄目であると痛感した。震災は兎に角、火難は確にあれ程に到らぬで済むだ筈である。

#### 一、摸擬文化の淺間敷事

地理と歴史とは其國固有の文化を作るものであるのに、我國の文化は全く自己を忘却して、徒に泰西の文明を移植し、文化を摸擬したものである。我國は有

名な地震國であり、大火の災害にも屢々遭ふて居る、故に夫等を顧慮し、參酌してやつて居れば、斯る凄愴な、悲慘な災禍はなかつたらうとは、何人も異口同音に云ふ所である。都市計劃も名ばかり、評判ばかりで、何の着手も出來ぬ中に破壊されたのは、せめてもの幸か。淺間敷き摸擬文化には誰れも彼れも愛憎がつきた。

#### 一、國民の上調子なる事

必要の程度が分らずなり、虚榮に憧憬し、修飾に苦心し、外見のよい様に、見してくれのよい様にとあせり。娛樂の美名を看板に遊蕩放肆を擅にした民風は、誰が目にも本調子ではない。それが都市より農村に浸潤し、識者をして齷齪せしめつゝありしが、今回の災禍は、夫等に對しては大なる痛棒であつた、懲罰であつた、罹災民同志が今回の災禍を目して「天譴」だと云ひ合ふ程に、斯る災害の來るのも當然であると反省する程に、上调子であつた夢が醒めた。

### 災禍の教訓

#### 一、世界各國の同情大なる事

國交上好感をも以て接衝せし國々は勿論、排日氣分をもてる、乃至排日實行中の國に至るまで、身内の者に對するが如き深刻にして暖き同情を寄せ來りし事は恐らく類例の乏しき事である。之れ我國が平素國際信義を重んじ、國際間の平和に汲々乎として務め、人類愛の國民性を四方に輸せし事に報いられたものと見るの外はない。何人も今回の此有様に直視しては、如何に國際間の關係が重大であり、四海同胞の大義を盡くさねばならぬ事を痛感した。

#### 一、因果應報の顯著なる事

如何に考へても、取りかへしのつかぬ事は鮮人に對する誤解である、誤解に基づく行動である。不逞のものありしならんも、それは少數である、多數は温良なる同胞である。それが恐ろしき惡魔の如くに思はれ、戰慄すべき行爲をなす者と



考へられて、非常な脅威を受けし事は、鮮人を苦しめ、慘め、奪ひ、掠め、敲きもした者が、我同胞にありし事を思出せし爲めであるとする。恐るべきは因果應報の顯著なる事であると、何人も思ひ知つた。

#### 一、財貨の價値の低き事

石造も煉瓦の家も倒れる、大火に出遭ふては土藏も倉庫も焼けて消ゆる、それ等に貯へられし金も物も皆灰になつて仕舞ふ。憐れ、槿花一朝の夢とは、これなんめりと、今更ながら悟りを開いても既に遅い。藝は身につけて居る、力は體に伴ふて居る、心は身の内に座つて居る、生きてさへ居れば、金も物も、とりかへす事が出来る。さても大切な者は有形のものでなくて、無形のものであり、物質でなくて、力であると、誰も彼も悟る事が出来た。

#### 一、農村憧憬のよみがへる事

焦土の地を去り、灰の都を去つて、足一度農村に入れば、天地靜かにして萬物豊である。今更ながら、農村を憧憬して、浮か々と都に出でしを後悔するも

のがある、二度と都へは出ぬと云ふもあるが、既に遅い。農村を理解せず、農業を諒解せずして、田舎を見くびるは、獨り田舎の人ばかりではない。上下風をなし、流をなして居ると云ふも誤りなしである。故に斯る災禍に觸れて農村の眞價が分り、農國本の大義が悟れるならば、國家永遠の爲めに結構とする。

### 災禍に面して

#### 一、落着く事

周章狼狽は何時でも醜いことであり、人物が試めさるゝものである。非常なる災禍は何時でもあるべきではないが、あると心得て居るべきである。非常に臨むで周章てぬは平素の心得方であり、變事に處して狼狽せぬは、常からの準備によるのである。周章せぬで落付て居れば道が開け、狼狽せぬで靜思すれば光りが見へて來るものである。

#### 一、心得あるべき事

因果は車の如く廻はつて居り、應報は神の業として働いて居る。救つて居れば救はれ、助けて置けば助けられ、働いて居れば苦しむこと少く、貯へて置けば困らず、考へて居れば思案に餓へず、備へて置けば窮せぬ。餘計なものを持たねば餘計な心配せずすみ、堪苦鍛錬して居れば苦辛の感じも軽くすむ。災禍の苦痛を受けるものは、皆平素不心得の應報である。

一、準備あるべき事

必要のものは平素にとりまとめて置くこと、一時の凌ぎをするに大切なものは不斷備へて置くこと、地震地帯は家の構造に注意し、火難の地方は火防に備へあるべきこと、盗難の恐れあれば締りをよくし、水害の地方なれば水防の施設と訓練とをなし置くこと、よき友を持つこと、親類つき合はよくして置くこと等考へればいくらもあるものである。

一、驕奢らぬ事

慢心は驕であり、虚榮は奢である、共に天心地意に逆ふて人生を危くすること

である。慢心は神佛に對し信仰あれば防止し易く、奢侈は下級の人に同情すれば豫防し得るものである。人多き時は天に捷ち、天定つて人に捷つと古來戒めてあるが、動もすれば忘るゝが人の弱點である。而も天は千古かはらず、地は永久に存在す、故に互に反省し合ふことの必要を忘れまじきこと。

一、我儘せぬ事

いざと云へば助け合はねば助からぬが人生であり、助け合ふ所に幸福あるのが人の社會である。されば極端なる個人主義や利己活動や我儘の振舞は自分で助からぬ穴を掘り、不幸の淵に陥るものと覺悟すべきである。されば家内和合、郷黨輯睦、舉國一致、世界親善は御互ひに心得て、常に己を空しくし、人様本位に考へ、働くことが出来る様にするのである。

一、温古知新の事

温古は古き人の言ひし事、なせし事は勿論古き出来事を穿議することである。其處には種々の教があり、則がある、故に古いとて馬鹿にしたり、粗末にすべ

きでない。同時に新らしいことは人一倍承知し、研究調査して辨へることである、古人の考へ及ばざりしこと、出来ざりしことが明かに分つて来る、故に新らしいことを排斥するも愚かなことである。温古知新は人類が平素の心得として忘れてならぬことである。

### 一、経験を貴ぶ事

人には忘却性がある、忘れ易いが人の缺點である。就中非道い目に合ふことは避くべきであり、難義を再びせぬことも人の望むことである以上、今回の如き災禍は二度と経験せぬ覺悟が大切である。されば今回の災禍によき経験を得た以上、此の経験に徴して新なる人生を作り、社會をつくるのが肝要である徒に恐怖し、嘆息し、途方に暮れるが如きは恥づべきである。數百億の財寶を消失した今回の経験は何處までも貴んで教へられ、進められ、勵まざるゝことある様にすべきである。

## 民生

### 賢明なる 勤 儉

勤は合理的(學理倫理の應用)であり、組織的であり(仕事の組み合わせをよくする)、協同的であり(會や組合を利用する)自助的であるを要す。然らざれば勞して効なく働き損の被れ儲けの愚に陥るべし。一(能率の増進)一  
儉は役に立つ様に、有効に、有益に財貨や時間や身心を使ふことである。出し吞みやつかはぬことが儉約と思へば吝嗇の嘲を招くのみ。

### 公平なる 分 配

肉體と精神とを問はず、勤勞には報いられ、與へらるゝものなり。故に勞せずして報酬を求め、盡力せずして所得を希ふは理に於て許さぬことなり。故に報酬も所得も勤勞に比例して分配されべきものなり、之を公平なる分配といふ。若し之に反すれば、天理も人情も之を許さず。地位や肩書や位階などは、分配に没交渉のものとする。

### 善良なる 協 同

協同は力なり、また權威なり。然し協同は目的の善良なるを要す。公共に資し、公益に貢獻し、人類共同の生活に功德を及ぼす所に協力一致すべし。衆を恃むで少數を脅威したり、我利を貫かん爲めに團結するが如きは卑怯の振舞として排斥すべし。舉國一致、舉村一致の場合の如きは、多く建設的なるものなり。協同は須らく建設的なるを要す。衣、食、住の華美よりも品性を重すべし、感情よりも情操を貴び、懈怠よりも勤勞を好み、自己の本能を満足せしむるよりも一殺多生の犠牲的行爲を喜ぶは人類の向上に伴ふ道程なり。賢明なる勤儉、公平なる分配、善良なる協同は皆人類の向上に資し、向上に心ある人によりてのみ出来るものなり。而して地位や肩書や俸給の上述は必ずしも眞の向上にはあらずなり。

### 健全なる 向 上

(社會の平和は安定の人々によりて迎へらる)



必要なる所以であり、協同的の訓練を急務とする所以である。

### 一、浄土

農業には廢物が出來ない、捨てるものがない。世を汚す糞尿も、家のまわりを氣持悪くする溝泥も、猫や犬の屍體でも、雜草でも、塵芥でも皆化して滋味とし、美果とするのが農業である。故に農業は四民が寄つて集つて汚す此の世の中を浄土とする業である。農民茲處に醒むる所あつて活動せば、農民の居住する所は何處でも浄土とすることが出来るのである。

### 一、國本

自然と協調し、天地と協力し、人類に必須の産物を提供し、傍ら世界を浄土化する農は眞に國本であり、國家生民の基礎である。基礎の鞏固なる所に建てる家屋が地震にもよく耐ゆる如く、健全なる、強固なる國家は農を基本とせねばならぬのである。農民此處に自覺し、自重し、以て國本培養の大任を全ふすれば農民の權威自ら生じ。其の地位の向上亦到來するのである。

## 農民の心得

### 一、能率の増進

働き甲斐のある様、少費多穫の働きが出来る様、愚痴を云はぬですむ働きが出来る様に努むべきは、農民が正に心得べき事である。之には農業に關しての見聞を廣くし、讀書を多くする工夫をせねばならぬ。教育と衛生と道德とは、之が爲めの三要素である。

### 一、組織の改善

家族の勞力を遊ばぬ様にし、年内に繁閑を生せぬ様に仕事の組み合せをよくし可成地方民と協調して大量取引が出来る様にすることは、農業組織の改善によりて出来ることである。責任者は細心の注意を拂ひ工夫し、力及ばざる所は人に問ふを恥とするなき心得が大切である。

### 一、經營の改良

農會や組合や倉庫などを利用して、飽くまでも協同的の經營をなすべきである  
出來べき限り、生産費の遞減、勞力の節約をはかりて、安く賣りても損せぬ様  
仕事は可成色々な事が出來る様に心懸くべきである。我利、我儘、身勝手は禁  
物のこと。

### 一、販路の擴張

仲介者、仲買人の手を煩さぬ様に、市場、需要者と直取引をする工夫が第一で  
ある。故に農會や組合や倉庫を利用して販賣斡旋所の世話になることが賢明で  
ある。出荷組合を作るもよし、或は市場を出して可然所は市場の經營も亦妙で  
ある。

### 一、對外の用意

外國の生産が影響し、爲替の相場が價格に關係し、關稅の高下が懐勘定に響く  
世の中なれば、海外の事情に通することも必要であり、商人の手練には油斷の  
出來ぬ事があるから、商取引にも研究を要する。昔の考へでは農業は成立せ

### 一、政治の自覺

農民も政治に參與し得るが故に、政治上の意見もあり、政治的行動も出來ねば  
ならぬは勿論のことである。特に農民の地位と權威との向上は、政治上の醒め  
によるが一番早いのである。それには選舉權の行使と、代表者の選定とが肝要  
である。

### 一、政策の監視

町村でも、府縣でも、國家でも農業政策がある筈である。なければならず、あ  
らしめねばならぬのである。あるならば如何に之が運用さるゝか、ないならば  
如何なる政策を樹てしむるか、農民の監視により輿論によりて決せらるゝの  
である。

### 一、農民の團結

利害を共にするものは結束し、團結せねば存在すら認められぬことになる。農

ぬ。

## 人偉二の治明

翁善明原金

子の民平  
 ぬけ受を育教  
 ぬ出へ外國も歩一  
 たい働で間民生一  
 たつなに長村、爵無  
 な範模の林植、社會、行銀  
 たつ作  
 たし頭没に業事護保囚免年晩  
 たつかなる用も草煙も酒  
 たつあて人い太  
 ため努に善改容抱ばれ見を惡  
 たつか多的較比は友交

子爵田尻稻次郎先生

士族の子  
 教育を受けた  
 外國へ留學した  
 官公吏で終始した  
 爵位あり、市長にもなった  
 財政、經濟の基礎を作つた  
 晩年修養團長として青年教育をやつた  
 酒が好物であつた  
 細い人であつた  
 惡を惡む蛇蝎の如しであつた  
 交友は比較的少かつた

吾輩は幸にして兩偉人に愛せられた。金原翁に接し其紹介で田尻子に面語の榮を得た。兩人は全く異つた生立であり、經歷であり、性格であつた。然し兩人は兄弟の如き親交があつた。年上だからでもあらうが田尻子は金原翁をいたはつた。翁は子爵を先生と敬つた。斯様な知己と相許した所以は、全く國を思ふ至情が一致して居たからである。兩人共凡人から見れば極端なる儉約家であつた。汽車は三等であり、衣服は綿服であり、住居は膝を容るゝことが出来れば可なりと謂つて、兩人共之を生涯實行した。而も後輩を導くには親切であり、本氣であつた。田尻子が民間にあるならば、金原翁であり、金原翁が官に上れば田尻子となるので、御奉公にかけては優劣がないと信ずる。兩人共約束を重んずること金鐵の如く、廢物利用に巧みなること神の如しであつた。兩人共に明治天皇の知遇を受けられたことは、他に類例がないと思ふ。

今や空前の大慘害、大悲禍來つて、兩人既に逝いて在らず、眞に寂寞の感に不堪である。希くは相共に激勵し、兩人の生命を吾等によみかやらしめ、以て國難の善後を全ふせんことを、之れ特に兩偉人をもした所以である。

民が從來國民の下積みにされて放棄されたのはそれが爲である。故に上下一致縦横連絡して、以て鞏固たる團結を作り、農民の聲は天に轟き、農民の力は地を動かす様にすべきである。

## 災禍を恐れぬ人、強き人

### 一、生い立

相當の家に生れたれど、中年世の中が分つてから、健康が萬事の母であるに悟り、身心の鍛錬に怠らず、弱き體格を改造し、憶病なる精神を矯正し、何事も堪へ得る身體と堪忍力が出來、勇往の意氣をも得た、彼は繫累少く(財産上自由(家格上)の身であるを喜んで居る。

### 一、境 遇

慾深き連中にとり圍まれ、個人主義的な人と交はらねばならず、八ヶ間敷て考慮するにも不便な所に住み、交はるに人少く、教を受けるに人なき所で、而も猜疑、陷躰の風習は他に比して濃厚である所に仕事をせねばならず、仕事は派手なものではなかつた、動もすれば馬鹿にされ易いものである。彼は鍛錬が出來ると喜んで居る。

### 一、主 義

人生を意識して働き得る所に満足し、利慾に淡く、仕事の出來ることに喜んで居る。能率を高むることに油斷せず、人の毀譽褒貶に超越して、唯責任を全ふせんことにのみ努力して居る。鯁節の如く削られ、煎じられ、他をよくするこゝとが出来ればよいと云ふが彼の主義であると常に唱へて居る。

### 一、生 活

衣、住、食ともに必要の程度を守ることに重きを置き、餘計なものを用ふることを恐れ惡むこと蛇蝎の如く、贅澤や奢侈は死を避くるが如くである。唯人に對しては世間並みの交際をなし、禮を盡くすことを忘れないが、己を持するこゝとは極めて薄く、家族相戒めて清潔、整頓、規律を重んずる日暮らしをする。

### 一、活 動

公益を重んじ、公共を貴び一舉手一投足皆之れを本として活動する。爲めに感情を制して人とよく協調し、地方の陋習を破つて社會の進歩に工夫し、努力し



根氣をつくす。貯蓄も事業資本を得んがために萬難を排して斷行し、人より相談相手として迎へらるゝ様に信用の徳を養ふに油斷がない。彼は正眞である、よく約束を守り、責任觀念が人一倍強い故に誰からも頼まれつゝある。

### 一、理想

よき人たる人を欲し、よき人を多からしめんと念願し、以て安住の世の中を作り、平和なる社會を作り、幸福なる世界を造らんことを目的として居る。それには日常の勤に感謝して働かねばならず、與へられたる業務に喜んで最善の努力をいたさねばならぬ。故に如何なる誘惑にも迷はず、悪魔の巧妙なる手段にも乗らぬ人、即ち大丈夫たらんと不斷の心がけ、勇士たらん日常の修養に つめて居る。

## 自己向上

### はしがき

諸君、内憂外患交も到るとは我國の今日ではありますまいか。而も亞細亞民族の盟主となり、白色人種に凡ての機會均等を主張し、亞細亞の黎明を開くの責任は我日本民族に在るのであります。此民族をして生命に危懼を感せしめぬ責任は、吾等農民の双肩にかゝつて居るのであります。

然るに吾等農民は經濟上の壓迫と社會上の脅威によりて、今は迷惑の民となり、安住の天地である農村は疲弊し困憊しつゝあるのである。

吾等は自己の力を以て自己を救ふにあらざれば、最早立つことが出來ぬ羽目に陥るのであります。今政府は何をなしつゝありや、政黨は何をなしつゝありや、考へて御覽なさい。之れ吾輩が老婆心を捧げて、自己向上を諸君の前に唱提する所以であります。簡單明瞭を旨とした關係、御賢察を仰がねばならぬ點の多いことは恐縮に存じます。

(大正十三年六月十一日)

## 一、主張

人に主張なきは、恰も言語なしと同様であつて、不具者である。

吾等は吾等を向上する主張として

思想は高遠ならんことを

智識は深遠ならんことを

行爲は廣遠ならんことを

唱へます。(遠は將來を慮り、知り、且つ將來に及ぶことを意味する)

換言すれば

目前のことばかり考へたり、見たりしてはいかぬ

皮想の觀察をしたり、表面のみ知つた丈けではだめ

感情に制せられて事をしたり、煽動されて事をやつてはならぬ

と主張するのである。

更に言ひ換へて見れば

小さな自分の爲めを思ふより多數の人のために考へよ

浅智識に陥ることを避けて何事も深く知り、未來の事まで知れよ

私慾に驅らるゝことなく功德を普く衆に及ぼし、將來にのこせ

と申すのである。

此主張を持つものは如何なる人でも向上する、形は粗なりと雖も斯る人には光りが出るのである。

## 二、綱領

吾々が世に立ち、事を處し、人に接するには、守るべき標準がなければならぬ、それが綱領である。吾等は如何なる綱領を持つべきであるか、それは

想は慈悲を本願とし未來を目的とす。

識は徹底を本願とし妙力を目的とす。

行は向上を本願とし功德を目的とす。

としたいのである。

通俗的にすれば

慈悲になる様考へたい、未來までの安心が得らるゝ様に一切を考へたい。

何事もどん底まで知り度い、如何なる難關も切つてのける様に知りたい。

すること、なすことが立派な人になれる様にしたい、何人も喜び安ずる様にやりた  
い。

となるのであります。

金が儲かつたら、一杯飲むと云ふ考へは悪い、家族を喜ばせ、尙餘裕があるなら他  
人をも喜ばすことが出来る考をせよと云ふのである。

一寸聞いて早のみ込をしたり、一見して分つた積りで居ると大抵は失敗するもので  
ある。よく調べ、よく研究して十分知つてかゝることが大切だと云ふのである。

座臥進退共に立派な人になる心懸けで爲し、出来ることなら他人にも利得を分ち喜

びを願つことが出来る様に勤めよと云ふのである。

綱領の下に働けば、つまらぬ不平が起つたり、愚痴が出るものではない、又た人の毀  
譽褒貶も意とするに足らぬことにもなり、立派な人格が出来る。戦はずして勝ち、攻  
めずして取るの秘訣は人格の向上である。たとへ、現世に浮かばぬでも將來には浮び  
上がることが出来、永遠の生命をも得ることが出来るものである。

### 三、自己反省

人である以上、生きねばならぬ、食はねばならぬことは分りきつて居る。

小供でない以上、自ら生き、自ら食はねばならぬことも分りきつて居る。

其處に反省することがあり、それが必要である。

一、自ら生きつゝありや、食ひつゝありや。

一、人の手を煩はし居らずや、人の助けを受けては居らずや。

一、人の手を煩はし居るならば、自分も人に手をかすことが出来ねばならず、人の

助けを受けて居るならば、自分も人を助けねばならぬ。共存の意義は此處に存し、人類は共同責任のものであることも明瞭になる。此點に對し自分は恥かしき所なきか、やましき所なきか。

一、祖先の力に食むものは寄食の徒であり、寄生蟲と同類である。自分の力で食はねばならぬ。此點に對し申分なきや。

一、思ふまゝにはならぬが世の中と悟るものもあるが、多くは自己の力の不足に困るものが多い。自分には世の中に不平を云はぬ丈けの力があるや否や。

一、力の不足を感ずる以上は之を養成せねばならぬが、其事に抜け目がありはすまいか。

一、信用、資本、智識、健康、不動心は力の根本である、然しそれ等は勉強、修業鍛錬によりて得べきである、自分は勉強に申分なきや、修業に怠りなきや、鍛錬をなしつゝありや。

一、天下は一人の天下にあらず、天下の天下であり、人間社會は一人の私すべきもの

に非ずして凡ての人類共有のものである以上、自分一人をよくするのみでなく他人をもよくせねばならぬ義務がある、自分は其心得で居るや否や、

一、弱からずや、卑怯ではあるまいか。

一、出過ぎ、やり過ぎ、言ひ過ぎはなからうか。

#### 四、職 業

人は職業で食はねばならず、生きねばならぬものである。換言すれば、人にはなすべき仕事があり、事務がある。世の進歩により、社會の要求により、人の性格により、境遇により、健不健により、其他種々の因によりて職業の殖へてゆくは、開らけゆく世の常態である。

職業に對して吾人は如何に心得べきや。

一、職業を味方と思ふて油斷するよりも、敵と思ふて用心するが賢明である。

一、藝は身を助くといふ眞理、藝で身を亡ぼすも亦眞理である。

- 一、品性と健康と勤勉は如何なる職業にも必要なり、職業に要する無形の資本は有形の資本よりも大切なるが常である。
- 一、職業に餘義なくされて働くは下者、安んじて働くは中者、歡喜して働くは上者である。
- 一、元來職業に貴賤の別もなく、利不利の別もない、之に従事する人の健、不健、賢、愚によつて結果に差別が出来るものである。
- 一、職業の選擇は人の自由であるが、出来る事なら人の自由を束縛せぬ、健康を傷けぬ、品性を墮さぬ、而かも働かねばならぬ職業を選ぶがよい。此の意味に於て農耕に従事する人は幸なりとする。
- 一、如何なる職業でも時勢に順應して經營せねばならぬ、それが出来ぬでは職業と人と共に時代遅れになる。
- 一、職業の成績は人の力の反響である、人の力が大なれば従事する職業は世を動かすものである。

- 一、職業の中に他を顧みぬものがあり、他を傷けるものがあり、他を損ふものもある。立派な人は職業を選擇するに意を用ゆ、自他を益すべく智を搾り、功德を將來にまで残すものである。
- 一、なせばなる、なさねばならず、何事も出来ぬといふは、なさぬなりけり。

## 五、最近の武器

新時代に處し得る方法は即ち最近の武器であると云ひ得る。新時代を迎へつゝある吾人は、最近の武器を用ひて戦はねばならぬものである。

- 一、資本主義の最も盛んの時には資本は慥に有力なる武器であつた、今日は寧ろ共同の力が最近の武器である。
- 一、金よりも共同一致の力が強い、金で出来ぬ仕事も共同の力で出来る。
- 一、産業組合の如き、農業倉庫の如き、農會の如きは利用せねばならぬ最近の武器

である。

一、何事も組合の力でやるは、最近の武器を使用するものである。採種組合、育種組合、苗代組合、各種業組合(畜産組合、養蠶組合、養鶏組合等)農事組合、實行組合、納税組合等色々ある。

一、農村電化も組合でやれば容易く出来る、農村の機械化も組合でやるが近路である、生活改善も亦組合でやれば譯もなく出来る。

一、唯だ力は一朝夕に出来るものでなく、之を養成するに意を用ねばならぬ。

一、まして顔が違い、性分が異なり、年齢も同じからざる人の共同は尙更容易のことではない。

一、各人は時勢に目醒める必要があり、目醒めしむるに最善の努力をせねばならず其處には非常の忍耐と努力とを要するは勿論のことである。

一、然し共同が出来れば強くなり、功者にもなり得て、其功徳を自覺することが出来る。

一、武器は下手につかへば自ら傷けることがあると同様に、團結の力、共同の力も悪用すれば、それ程世を害し人を困らすものはあるまい。故に何處までも吾人の主張と綱領とを裏切らぬ覺悟が大切である。

## 六、今後の世の中

一寸先きは暗みの世の中と云ふが、神ならぬ吾人には未來は不可解であり、將來は未知數のものであるが、然し人の智識で想像は出来る。當らずと雖ども遠からざる觀察は出来るものである。

今後の世の中は吾輩の想像であり、觀察であるから、當にはなるまいが、參考に供する。

一、人の力で創造の出来ぬ、又は増減も出来ぬ土地は、所有權を貴ぶよりも使用權が貴くなるであらう。

一、一切の財産は之を所有するに不都合となり、之を使用するに便利になるであら

う。

一、働かぬ人は人の風上に置かれぬことになり、働く人の爲めに輝く世界になるであらう。

一、利己私慾にからるゝ人は社會上影が薄くなり、民衆本位に働き、考慮し、智慧をしぼる人が存在を明かに認めらるゝであらう。

一、少數が目醒めた世界が閉ざれて、多數が目醒める世界が來つゝある様である。

一、政治は勿論、經濟も、法律も、教育も、皆多數の民衆を本位とすることになるであらう。

一、國家主義や國家觀念は容易に衰へないが、世界主義、人道主義が世界に流布するであらう。

一、言論よりも實行を貴び、議論よりも實際が重んぜられ、空想よりも理想が尊ばれるゝことになるであらう。

一、健康は萬事の母なりと云ふことが痛感さるゝであらう。

一、生活の意識よりも生活價値の意識が明瞭となり、衣食住の美よりも、生き甲斐あることを重んずるに至るであらう。

人は將來を開拓し、未來を製造する動物であると、吾輩は信ずるものである。

## 七、今後の問題

之亦吾輩の想像に過ぎぬが、然し吾輩は信ずる所あるによりて、敢て諸君の參考に供するものである。

一、我國に於ては人口問題が益國家問題として眞剣に取扱はるゝであらう。移殖民問題は當然起らねばならぬ問題である。教育上之に關する教科目が加はることゝ考へる。

一、近き將來に於て摸擬文明や皮相の文化は排斥され、我國の創造文明が出來、眞の文化生活に目醒めて來ねばならぬことが問題となるであらう。

一、天然資源の窮乏に國民的覺醒が出來て科學を應用する勤儉力行の民風を興さね

ばならぬと云ふことがやがて問題となるであらう。

一、民風作興は對内的にも對外的にも必要なりと痛感すると同時に、綱紀肅正は眞剣な問題となるであらう。

一、白色人種に反省を促すべき問題が必らず起つて来るであらう。

一、食糧は科學的に創造が出来れば兎に角、然らざれば世界的の問題となるであらう。

一、農村振興は單に我國のみの問題でなく、世界共通の問題となるであらう。

一、我國では山の利用を盛にすべく、又雨水や急流を利用すべき問題が八ヶ間敷なることであらう。

一、我國では自治政の改革が必要となり、自治體の權限擴張と同時に自治機關の革新が問題となつて来るであらう。

一、經濟と道德との分離を撤廢し、其信條を新にせねばならぬ問題がやがて起るであらう。

遲速の別はあるも必ず起りて来る問題であり、問題とせねばならぬ問題と思ふのである。

## 八、自己向上

進むには進む人の努力と進むで行く所の道がよくなければならぬは勿論のことである如何に脚が達者であつても、道路が悪ければ暇がかり、道なき所では行詰りになる恐れもある。

自己の向上に志すものは、自己の向上に努力すると同時に周圍をよくし、環境をよくする用意がなければならぬ。夏になりて綿入れを着て居ては汗が流れて苦しく、冬になりて裸で居ては寒くて困るものである。環境をよくせざれば勞して効なく、周圍をよくせざればやり甲斐がなくなることもある。之れ社會改良の必要なる所以であり、民風作興の大切なる所以でもある。

然し何處までも自己を守るに忠實で、自己向上の道に熱心で、如何なる所に處しても



如何なる人に接しても、如何なる事に際會しても、自己の向上に執着すべきである。自己の向上には

- 一、主張がなければならず。
- 二、綱領が明瞭でなければならず。
- 三、自己反省が出来ねばならず。
- 四、職業に付ての悟りが開けねばならず。
- 五、最近の武器を辨へねばならず。
- 六、今後の世の中を洞察することが出来ねばならず。
- 七、今後の問題に付て用意があらねばならず、而して近狀に通じ脚下を見ることが出来ねばならぬは勿論のことである。

各人が自己向上に志せば、國民としての向上は出来る、國民の向上が出来れば人に侮らるゝこともなく、又侮るの愚をなすことも出来ぬことになる。

我帝國の現狀を救ふの唯一の道は、自己の向上に在りとする。各人が其處に努めて息

まざれば我國民も國家も救ひ得ると吾輩は信じて疑はぬものである。

## 九、農業の十得

農業は經濟的にのみ觀察され、體驗されて、今や引き合はぬ仕事と認められ、勞して効なき業であると思はれ、何人からも忌まれ、惡まれ、侮られ、嫌はれつゝあるが吾輩は情ない誤解であると敢て云ふ。

農業には他業にまさる十得がある。

- 一、健康を興ふる
- 一、自由を得せしめる
- 一、剛毅ならしむる
- 一、趣味がるる
- 一、家族團欒ならしむる
- 一、自然に親しくなる

一、國家と社會とに奉仕が出来る

二、淨化が出来る、世の汚垢を美化することが出来る

一、科學に親しむことが出来る

一、隣保團結が出来る

農業は苦しい仕事である丈け楽しいことがある。

賢く働かねばならぬ仕事であるから懈怠を許さぬが農業の本質である。

農業ほど協力一致を要する仕事はない、此處に悟りて協力すれば如何なることでも出来る。

農業は靜かに考へ、深く慮り、審に察して最善の努力をせねばならぬ、故に農業は急いだり、あせつたりしてはならぬものである。

科學の應用利器の利用に盡力いたすべきが何時でも必要である、故に農業は科學的であり、學術的であると悟ることが大切である。

金錢上の利得が大切か十得が大切か、農業に従事するものは深く思ひをいたすべきである。

ある。

悟つた農民は貴い人たり得る、世俗に超人たり得る、偉人傑士と伍することも出来るものであるとする。

## 十、念

### 誦

友人保々隆矣君は、今滿鐵本社に入り學務課長をつとめて居る人であるが、曩に歐米を視察して、我國を救済するは教育を根本的に改造するにありとし、「帝國の危機と教育の根本的改造」を著はして之を世に公にし、今や英漢語にも翻譯されつゝある。又た「新日本の青年の標語」なる小冊を作りて青年は勿論國民の座右の銘にされたのである。

吾輩今自己向上をものするに當り、同氏が青年の標語中に掲げられし念誦を附記する事を諸君の前に一言せざるを得ぬのである。同氏の如き熱烈なる經國愛民の士のあるを紹介せんとするのである。

吾輩は斯くの如く自己向上の道を簡潔に示されたるを未だ見ないのである、試みに見よ。

念 誦 (一)

唯夫れ一心の私慾のみに忠ならば、一家の平和を害ふことあるべし。

唯夫れ一家の利益のみに忠ならば、社會の平和に背馳することあるべし。

唯夫れ自己の屬する小社會にのみ忠ならば、公に不忠のことあるべし。

唯夫れ偏狹なる忠孝の念に驅られ、時流に逆棹せば世界の人道に悖り、眞の國益を害ふことあるべし。

念 誦 (二)

吾等は天然資源の窮乏は必ずしも悲まず、

勤儉、力行の美風衰頹するを是れ憂ふ。

吾等は時代思潮の混沌を必ずしも慨せず、

理智の批判と敬虔の念の乏しきを是れ憂ふ。

吾等は列國の嫌忌と排斥とを敢て怖れず、

國民の英氣、消耗沈滯するを是れ憂ふ。

吾等は「百億の富の消滅」を必ずしも悲しまず、

民心の荒廢と卓越せる指導者なきを是れ憂ふ。

## 興村の葉

### はしがき

外交は益々強かるべく、内政は愈々進むべきに、事實の之に反する今日の状勢は、憂國愛民の士をして座視を許さず。奮然起つて革新の事に當たり、慨然として事を處するに猛進せしむる。

大正の維新を稱へて年既に久しきも、其事成らず、而かも其必要を痛感するは、志士の抱懐である。問題の農村振興も大正維新の事業であるが、今や論議倒れの觀があるは、志士の黙視するに堪へぬことである。

此論文小なりと雖ども、聊か僕の抱懐を述ぶる所あり、同志の人に他山の石ともなれば、獨り僕が欣ぶばかりではないと信する。(大正十五年二月十一日佳晨の日)

## 一、政治的自覺

政治に自覺すべきは、農民の刻下の急務である。政治に自覺する先決事項は、権利の行使に目醒むることである。

議員の選舉權を神聖に行使すること(情實、金錢、運動に制せられざるこ

権利の  
と)

忠誠公正の人を選舉すること

行使

進言の權利を尊重すること(建議、上申、主張を敢てすること)

提案の權利を行使すること(對策を表示し、計劃を指示すること)

普選に直視した農民は、政治を私したり、徒に政權の爭奪に没頭したり、政黨に忠實にして國民を忘るゝが如き徒輩は、政治界より驅逐する覺悟と努力とを必要とする。農會は農民の輿論を作り、農民の聲を上ぐる唯一の團體である。法に於てそれが認められ、事實は之を證して居る。唯農民の自覺足らざるが故に、農會に權威なく、力な

く、従つて農會の存在が認められざる憾がある。此際農會を強固に組織して、之を利用するは賢明の措置なりとする。それには農民の力で農會を支持し、農會を強固にし農會を發達せしめねばならぬ。與へる補助は受けるもよいが、補助によりて活動せんとする心裡は自己を侮るものとする。

## 二、所謂農村振興策

曰く

一、農家負擔の軽減 一、自作農の維持創成 一、農村金融の充實 一、小作法の制定 一、耕地政策の改善 一、農村社會事業の獎勵 一、農村教育の改善 一、重要農産物の關稅定率法の改正等は政治上の權利に於て主張すべきことであり、政策として建議すへきことであり、農民を認めしむる點に於て其實現に努力すべきである。政治政策は政府や議會にのみ限らぬ、府縣にもそれがある。故に府縣をして農村政治に忠實ならしめ、農村政策に眞摯ならしむることを忘れてはならぬ。農村振興の捷徑

は、府縣政の上に在り、府縣に於ける政策の樹立に在る。此處に目醒めて、府縣當局者を反省せしめ、府縣會を督勵することを敢てせねばならぬ。

要するに、政府を始め、議會、府縣、府縣會をして農村を認めしめ、農民を意識せしむるが急務である。これが爲めには、農民の聲を高め、農民の力を強ふし、農民の侮るべからざる所以を知らしむるが必要である。此處にも農會の活動が痛感され、活動する農會を必要とする。農會をして斯くあらしめ、斯かる農會を得るは、農民の力で行かねばならぬとする。

## 三、農村振興の捷徑

農村は自治體である以上、自治によりて農村は振興すべきであり、そうせねばならぬとする。國政の影響する所多く、國家の政策が及ぼす反影の少からざるは勿論なれど自治に目醒め、自治政を更新することによりて、確に農村を振興に導くことが出来るそれ故に



に、相當の施設を要する。

生活—生活改善は國民的事業であるが、舊慣の陋なるが多い農村に於て特に其必要を感ずる、故に對策がなければならぬ。

立法—條例を設けて住民全體の實行を期し、規約を作りて凡ての人に履行せしむることが益々多くなる、時宜を得べきである。

各方面がよく整ひ、よく進めば、農村自ら振興する、振興するが當然の歸趨である。

## 五、自治事業

### 一、目的

地方公共の利益を發達せしめ、住民の幸福を増進すること。

住み心地よく、愉快に働かけ、面白く住める様にする事。

此の目的を達成するが自治であり、斯くなるが自治の力である。

### 一、機關

行政機關—役 場—吏 員 立案と執行を司る、  
代議機關—町村會—議 員 審議と決議をする、  
一心同體の關係を有するもの。

### 一、費用

町村制では、町村有の財産より生ずる収入を以て支辨することゝなつて居るがそれがなく、足らぬから、納税を以てして居る。而も納税丈で、費用一切は足るものではない。義捐、寄附、賦役の必要が起るのである。

### 一、計劃

都市計劃に對する農村計劃をなすべきが、自治事業の先決である。之れによる教育、土木、衛生、勸業、警備、經濟、思想、生活、等の事業であらねばならぬ。

### 一、自治心

自治心には、公共心、共同心、自助心、義務心、向上心の内容がある。自治心の發達を見ざる限り、權利の行使に神聖は期せられず、義務の履行に忠實なる





行動は許さぬところになるのである。

言ふことは行ひ、行はざること、行ふべからざるとは言はず、言論後にして實行を前にし、然諾を苟くもせざるは大和魂である。餘計な事を言ひ、無駄な議論をなし、無責任な言論を敢てし、以て平和を破り、共同をそこない、民衆をして迷惑せしむるは、大和魂のない連中である。

農道は皇國精神を養成し、大和魂に磨きをかける唯一の道である。故に當年の武士の繼承者も農民であり、忠良なる軍人も農民であると稱せらるゝのである。農道の存する農村の振興が高唱され、農道に生きる農民の自覺が要求さるゝは、偶然でないとする。

思想善導が急務である今日、農民の自重、自治を祈るは、憂國愛民の士の共通心理である。

## 八、刻下の急務 (其二)

思想の不健全なる、不真摯なる、不良なる、勞働忌避の思想にまざるはないのである。勞働忌避の思想は、今や都鄙を分たず流布しつゝある。其弊の及ぼす影響其毒する所は、國家に累を及ぼし、國民を危類に陥れつゝある。それ故に勞働の神聖なるに目醒めしめ、勞働の功德に自覺せしむるが、刻下の急務である。

善人は與ふる人であり、與ふる人は必ず働く人であり、働く人は、家庭でも、社會でも、必ず歓迎され、感謝され、其存在が認めらるゝのである。世が開かれて、勞働者や耕作者の地位が上り、其權利義務が擴張さるゝに徴しても、それが分る筈である。悪人は奪ふ人であり、奪ふ人は働かぬ人であり、働かぬ人は、家庭でも社會でも、必ず憎惡の標となり、呪咀さるゝに至り、果ては存在が認められぬことになる。不勞の人が、財産、地位、門地によりて安全なる生活をなし得ぬ今の時勢を見れば、何人でも悟れぬ筈である。

静思、默考すれば働く功德、働く人の權威、働く者の難有さが分る。農村の人、先づ此處に自覺せねばならぬとする。

### 九、農業の價值（其一）

最も近きもの最も遠き隔あり、それは古今一貫の眞理である。人の眼はよく千里萬里の遠きを見れども、眉毛を見ることが出来ぬのである。農民は毎日農業に従事しながら自家の業務の價值を知らずに居る。故に自ら侮るの愚をなす、之れ他から農業が輕視さるゝ所以なりとする。

農業は生産業である、完全なる生産業である。而も單に價值と効用とを作り出す。

新に生命を作り出すこと、

生産 新に價值を作り出すこと、

新に効用を作り出すこと、

商、工業と異りて、生命を生産する所に、農業の價值があり、權威がある。それ故に

農業を尊重する國家は永遠に榮へ、農業にいそしむ家は家運長久であり、農業に樂しむ農民は長命であるのである。

故に農業は經濟を超越して考ふべき職業である、而も時勢の進歩は經濟的にも農業を導きつゝある。眞に目醒めた人は、此處に悟らねばならぬ、此處に目醒めし人で農村振興は出来る。

### 十、農業の價值（其二）

農業は偽りを挟むことの出来ぬ仕事であり、修飾を要せぬ生産業であり、人生に缺くべからざる必要品を生産するものである。故に農業に眞面目に働く農民は自ら正直であり、質實であり、無駄なことが出来ぬことになる。正直は信用の母であり、質實は剛健を生み、無駄なき生活は緊張せしむる。農民の價值も、農業の價值も其處に存する。

それ故に農業は單に農民の業ではなく、正實、質實、無駄を排する人士の従事する業

務である。南洲、乃木大將が農業に従事せしも無理からぬのである。

此處に目醒めて土に親しみ、天地と共に働く農民は眞に寶である。此寶が存する所、此寶の殖へる所に國家は興隆し、家運は繁昌し、自由を謳歌する國民が出来るのである。

まして時勢の進歩につれて、農業の經營に一生面が開かれる今日、徒らに農業の勞多くして益する所少きを怨むは、愚の至りである。

業の本質に目醒め、業の價値に自覺して、猛然として立ち、毅然として働く人は、農村振興の門戸を開くのである。

## 十一、新時代

彌榮の國、彌榮を理想とする國に於ては、澁滞の氣分が漲る時、必ず新時代が劃せられ、新時代が招來される。而も平和の裡に、談笑の間にそれが出来る。

新時代を劃するものは若い人達であり、新時代を招來すべきは青年處女である。由來

希望に生き、目的に生命を捧げ、理想の實現に信念あるは、若い人達の面目であり、價値である。

國家の興隆に貢献すべく、農村振興を劃するは若い人達の責務であつて、其處に希望もあり、目的もあり、理想もなければならぬ筈である。農村の現狀に愛憎をつかし、農業の行詰りに悲觀し、農民生活の慘じ目なことに落膽するは、若い人達の面目潰しであり、青年處女の恥辱である。

自ら動いて天下は動く、自ら焼けて他を焼く、須らく若い人達は其面目に目醒め、其本領に自覺して、新時代を作り、新時代を作らねばならぬ。農村振興は、之れ等の人の義憤によりて成る。

## 十二、國家興隆の兆

國家の興隆は國民精神の剛健に在りとは、詔書の御言葉であつて、賢いことである。國家興隆の兆は、全く國民精神の剛健に見ることが出來、民心の緊張、民風の興張に徴すべきである。

正善に向つて猛進する元氣、責務に勇往する本氣が旺盛になれば、國は必ず起り、地方は必ず榮へ、民衆は必ず安全地帯に導かる。それ故に

農村振興は農村民心の剛健であり、緊張であり、更張であらねばならぬ。換言すれば、農村振興は農家の精神振興が根本であり、農民の魂の活躍に待たねばならぬとする。

元氣の中心は若い人達であり、正氣の根元は青年處女であらねばならぬ。故に農村振興の出來る、出來ぬの鍵は若い人達の手に在るのである。

近時農村青年に自覺の氣を見、目醒めの曙光を見るは、國家興隆の兆なりとする。希くば農村の若い人達、其處に自重し、益々自奮する所あれ。

## 農民の自覺

### はしがき

世間に農業政策を論ずる者日に多きを加へ、農村振興策を議する者亦多きを輸して農村の窮迫、農民の困憊は愈々深酷を加へつゝあるが、今日の農村であり、農村の現狀である。

幕末の時、國論沸騰して際限なき折柄、土佐の志士であつた某は、

議論より實を行へ怠け武士

國の大事を餘所に見る馬鹿

と喝破したのは、今尙痛快の感があると同時に、今日を洞察しての言であるとも思はる。

全く今の世も議論倒れである、議論の好材料となり、研究の良資料となつて、倒れ行く農村、衰れへ行く農民は、慘めの極である。而も、之れ國礎の崩壊を意味し、國

民滅亡の前提であると思へば、慄然たらざるを得ぬことである。

吾輩は、自ら助くる者は天之を助くの格言に基きて、農民の自覺的努力を見ざる限りは、農村も國家も助からぬ、國民も農民も救はれぬものとする。之れ國家の興隆を念願し、皇國の彌榮を祈禱する吾輩をして、短才微力を顧みるの暇なく、此冊子をなさしめた所以である。

判じ難き所あり、要領を得ぬ所あり、分らぬ所もあろうと信ずるが、御賢察によりて明瞭となることを祈ります。(大正十三年十月三十一日)

### 農

### 國

### 本

(農は國の本なり、そは千古不磨の眞理なり)

國家成立の要素の一は土地なり、國土、領土即ちそれなり

土地積載性  
可耕性  
可養性  
の性質を完全に使用、利用する業務は農業なり。

(工業、商業は單に土地の積載性を使用、利用するのみ。)

#### 國土の經營

は一に農業の進展による。——國本の理由(其一)

#### 生産

新に生命を作り出すこと  
新に價值を作り出すこと  
新に効用を作り出すこと

生産には如上の三意義あり、此三意義を完全にする業務は農業に限る。工業如何に大なりと雖も、商業如何に盛なりと雖も、生産の内價值と効用とな作り出すに過ぎぬものなり。世に職業多しと雖も新に生命を作り出すは農業のみなり。

#### 民族の生命

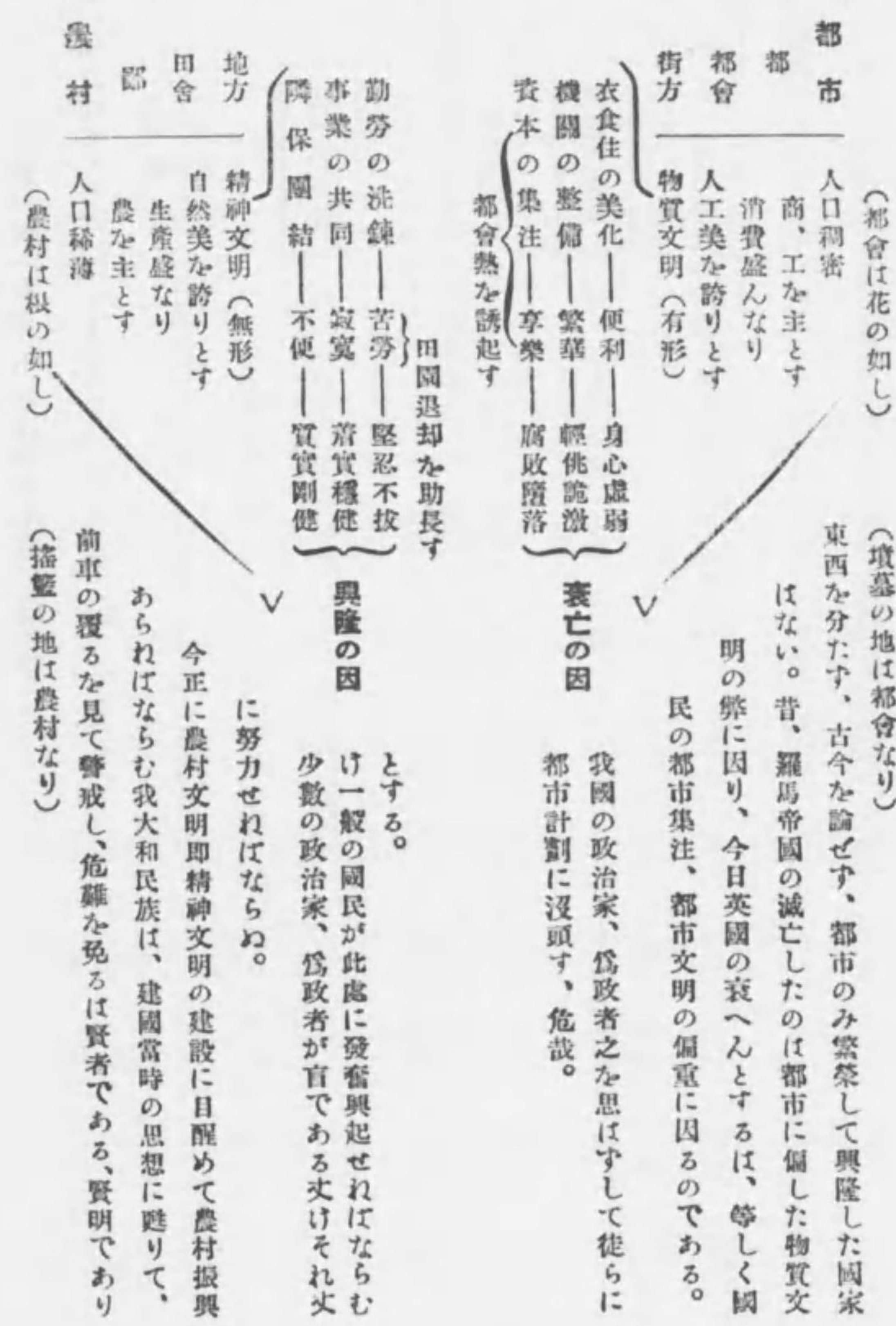
は一に農業に依りてのみ支持され、相續さるゝ。——國本の理由(其二)

人——人民六千萬の同胞の最大多数は農民なり。

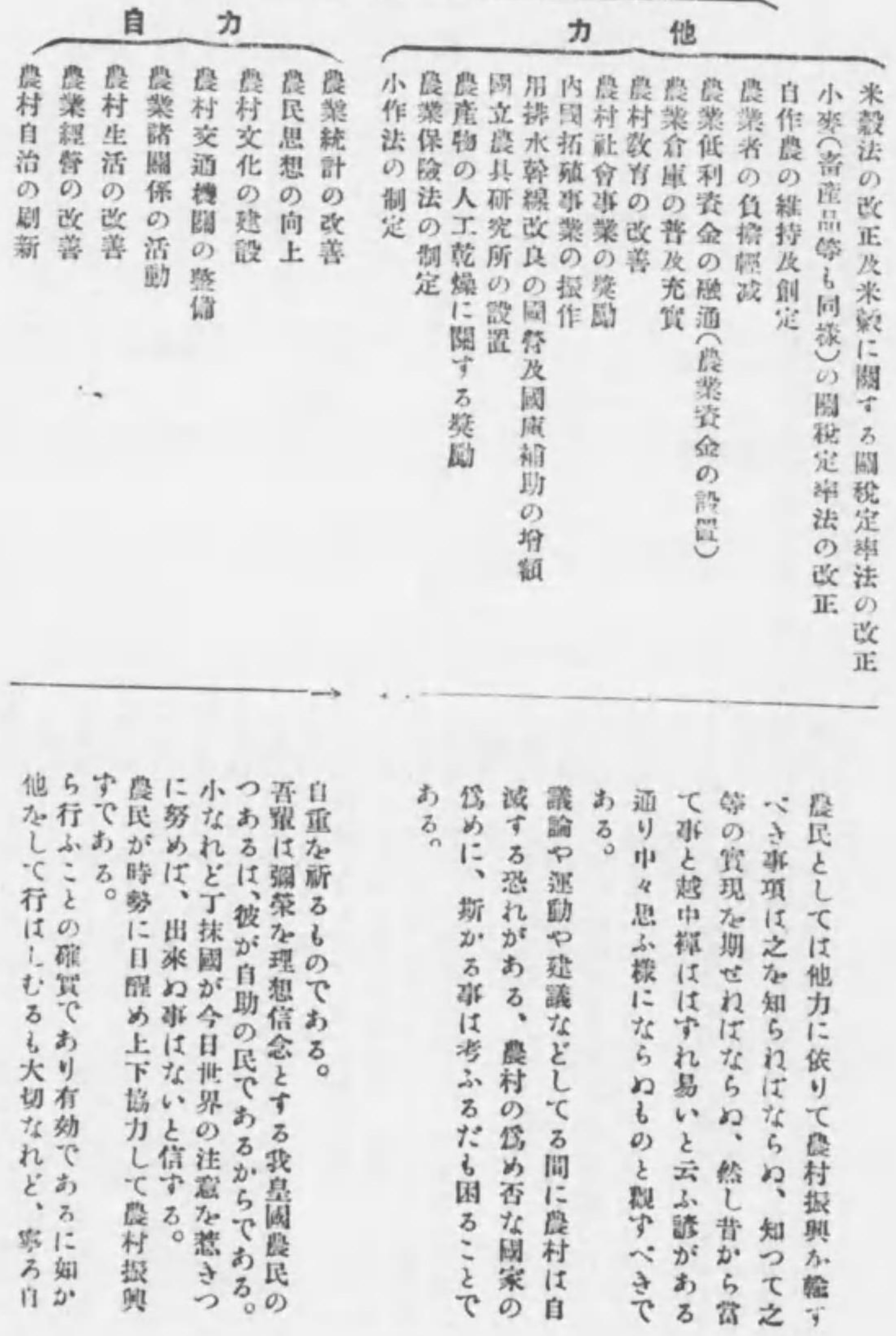
國家成立の要素の二は人民なり、民族、領民即ちそれなり。

(國家の要素は農業の如何によりて消長、盛衰の別を生ず)

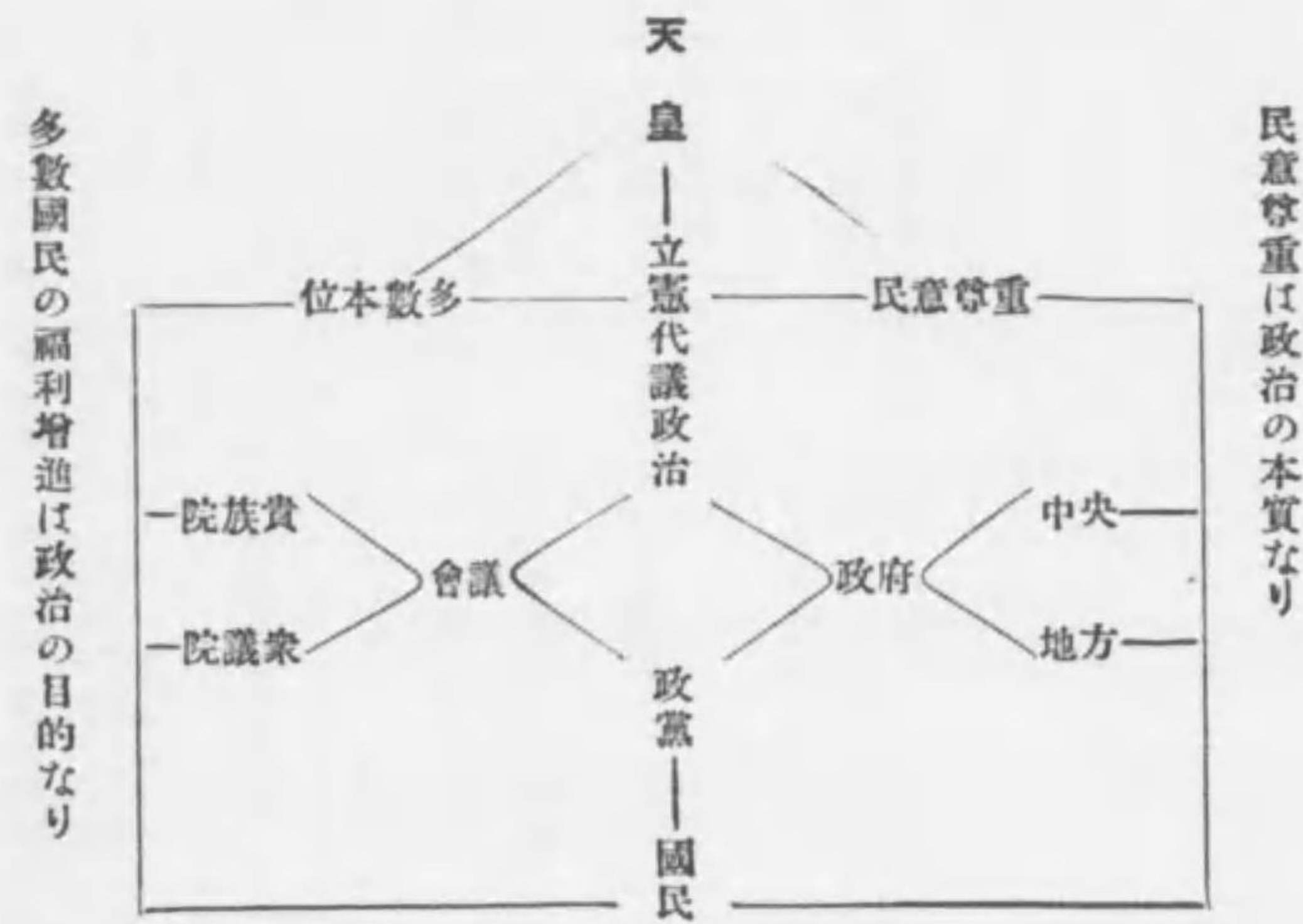
# 家 國



# 農 村 振 興 策



# 政治



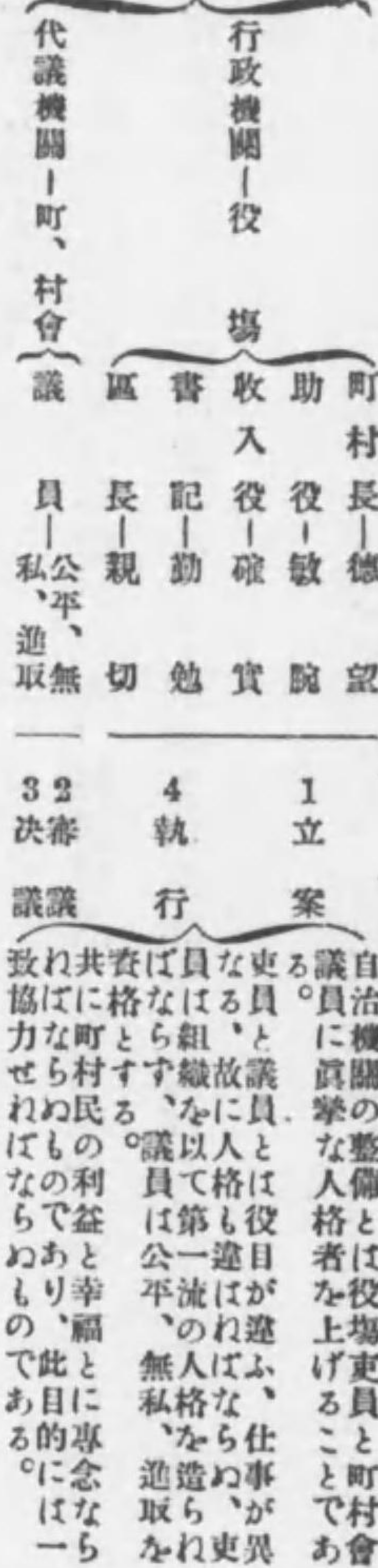
多数國民の福利増進は政治の目的なり

民意尊重は政治の本質なり

我國に於ては國利民福をはかる現神人たる天皇の意志を行ふことが政治である、大臣も刀筆の吏も國利民福を除いて仕事はない筈である、況んや國民を代表する代議士に於てをやである。國民を基礎とする政黨は國民の利益と幸福とを招來する政策を立つる外目的はないものである。徒に黨勢の擴張を事としたり、政權の争奪に没頭したり、利権を漁ることに汲々乎たる政黨があるならば、それは國民の敵である。自己の名譽の爲めに、自己の勢力を張らんがために、自己の私利を營むが爲めに、乃至、自己の黨あるを知つて國家と國民とのあるを知らぬ結果自己の黨の爲めに、代議士たらんとする者も亦國民の敵である。多數を占むる國民でありながら閑却されし農民は全く政治上に自覺せざりしことに目醒めればならぬ。多數國民の農民は全く沈黙の民であつた、政治に没交渉であつた、それが農村の今日を招來したのである。自ら蒔きし種子の結果は自ら收穫せねばならぬと同様に、農民は公正に政治的に目醒め、先づ選舉權の行使を神聖に、代議士に對しては其の責務に努めしむべき鞭撻と後援とをせねばならぬのである。

## 自治制運用に關する自覺

### 1. 自治機關の整備



### 2. 財源の涵養

#### 基本財産の造殖

町村制には町村の費用は町村有の財産より生ずる収入を以て支辨することゝある。故に町村有の財産を造殖するが肝要である。

#### 擔稅力の養成

今日は町村稅を財源とするが故に、町村民の擔稅力が豊かでないければならぬ、それには義務心の養成と職業が有利に經營されねばならぬのである。

### 3. 事業の經營

自治事業の經營は現實に公共の利益が發達し町村民の幸福が増進することを目的とせねばならぬ。事業の爲めに、町村が疲弊したり、住民が困憊するが如きことがあつてはならぬのである。

今日の町村は働かぬ人を作る教育に多額の費用を投じたり、形式的の事に無駄な費用をかけて居る。此點に付て町村民は明確なる自覺をせねばならず、せしめねばならぬとする。

町村費を要せぬ所に必要の事業がある、經濟機關—産業組合—農業倉庫の如き—を作るが如き、生活の改善をなすが如きは是非やらねばならぬ事業である。

### 4. 町村有力者の心得

苟くも有力者と云ふ以上は、時勢を理解し、自己の責務にも自覺あるものであらねばならぬ。農村の文明文化は精神的であることを知つて、飽くまでも隣保團結の美風を助長し、凡ての事業が共同一致で出来る様、而して農耕にいそしむで

其勤勞が正直であり、質實であり、必要品の生産をするにあるを悟つて、其處に満足と感謝があらねばならぬのである。

勿論一般町村民の先達であり、指導者である場合もあるが故に常に一舉手一投足を慎みて、民風作興の中心となり、人心更新の先導者とならねばならぬのである。

悪い町村には必ず利己に馳せる有力者があり、私慾を逞ふする有力者がある、爲めに村内の平和を攪亂したり、選舉界を腐敗せしめたり、民風敗類を招來したりする、故に有力者の地位と責任は重且つ大である。

地方公共の爲めには喜むで公務に服し、住民の幸福には一身を捧げて奉仕するが有力者であらねばならぬとする。

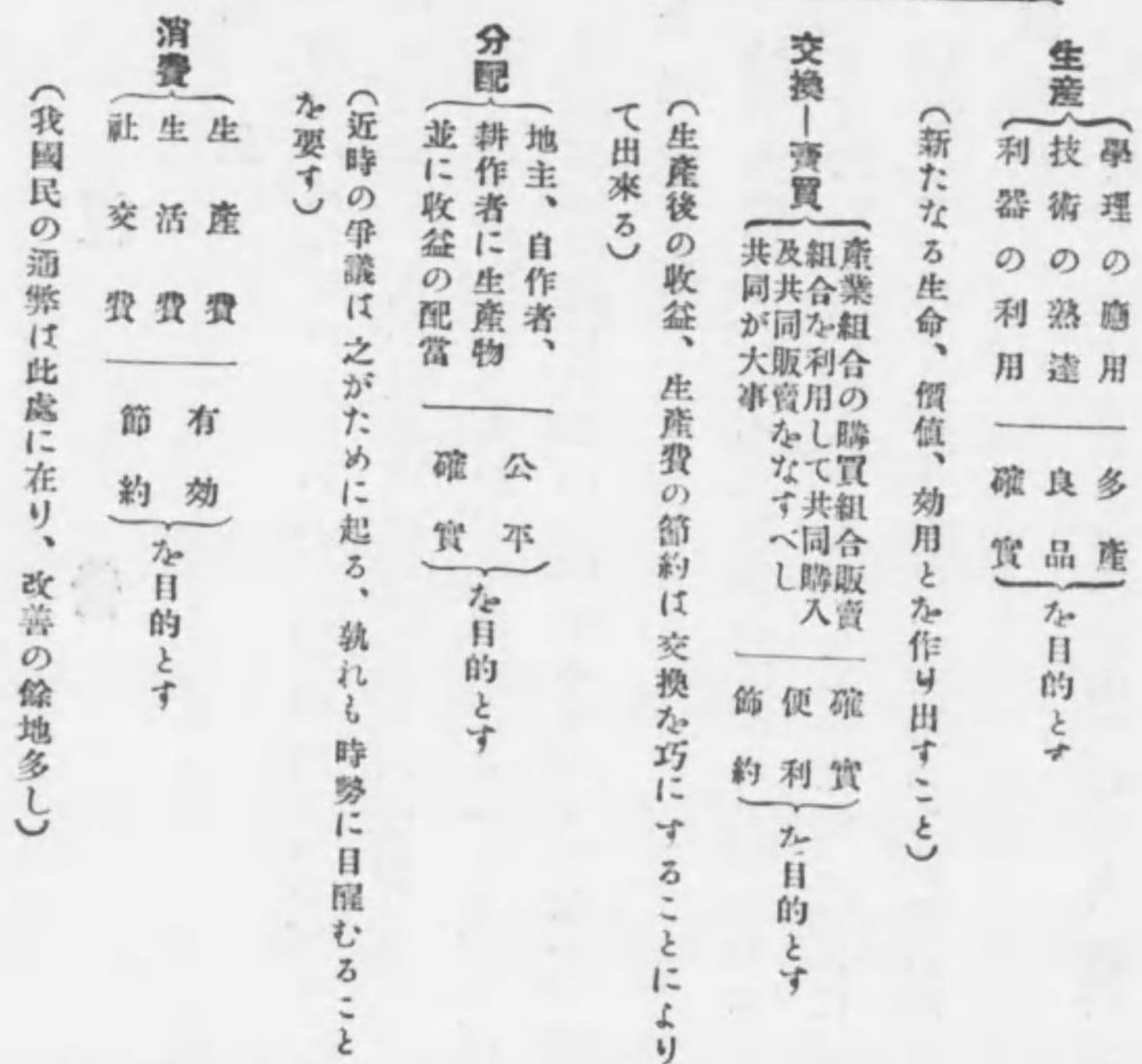
### 5. 若き人々の醒め

若き人々は理想に生くべきであり、信念を以て進まねばならぬものである。現狀が好ましからぬならば之を打破すべし、徒に農村の今日に囚はれて前途を悲



観するは若い人々の面目ではない。  
 農村にも文明があり、文化生活が出来る筈である、農村文明を建設し、農村の文化生活を創設するは若い人々に與へられたる仕事である。  
 農業は創設であり、藝術であり、洗練勤勞でなければ出来ぬことである、單に形式を見て之を忌避せんとするは、醒めぬ人々であるとする。  
 眞に國本を培ふて國家を泰山の安に置くは、若い人々の使命である。

經 濟



世に農業の不利を論ずるものあり又左様と確信して之を忌避するものもあれど、皆誤れるものである。農業の不利なるは經營上の不合理なるに因る。狭い耕地を耕すことや、經營の下手な爲めに不利なるは已むを得ぬこととする。試みに考へて見よ、我農民は賣買に遺憾なきや、分配に相當の研究をなせりや、消費に申分なきやを。不幸にして生産上に於てすら尙改良の餘地が多い、其他は全くなつて居らぬと云つてよい、されば利益が少く、損することが當然と云ひ得るにあらずや。農民は此處に目醒め、又た目醒めしむることが肝要である。吾輩は農界の前途洋々たるを思つて祝福するものである。

## 經營

### 一、精 勤

働かねばならぬと云ふ人生觀に徹底するを要す、食へぬで働く、金を得るがために働く、人の見る所故に働くと云ふ様なことでは精勤は出来ぬ。一の信念に基くか、信仰によるか、主義によるにあらざれば精勤は出来ぬ。忠實服業、勤勉恭儉は餘義なくされて出来るものではない。而も精勤は第一の要素である。

### 一、合理化

精勤も學理を辨へず其應用が出来ぬでは往々にして働き損の疲れ儲に導き、稼ぎ貧乏の窮地に陥れ、人をして失望せしむるに至る。されば科學の智識と其れが齎らす方法とを巧に應用、利用して徒勞の嘆をなさぬ用心が肝要である。

### 一、組織化

如何にする事、なす事が合理化されても、暇があり、仕事が切れることがあり

ては駄目である、三百六十五日の勞力が平均する様に、家族の凡てが適當に働き得る様に仕事の組み合はせが大切である、近來農業經營は多角形であらねばならぬと云ふが、面白いことである。

### 一、協同化

斯くなれば勞力の節約が大事となり、所によつては勞力の補給が大切である、之を遺憾なくするは協同經營に如くものなしである。産業組合、農會、小組合實行組合等所に應じて活用さるべきであり、同時に地主と耕作者と協同せねばならぬことにもなる。

吾輩は農業を利益なしとて之を忌避するものは、無形の利益に盲目のものなりとする。

農業を儲からぬが上に賤しき業務なりとするものは、經營の妙法に没交渉のものなりとする。

農業を原始的の産業なりと侮視するものは、農業の向上的手段に無智なるものとする

る。

農業は爭議によりて破壊さるゝものゝ様に考へて農村を退去するものは協同の妙理を知らぬ馬鹿者なりとする。

農業を文化生活に不適當なりと信じ之に従事することを嫌ふものは農業の功德を知らざる低能者なりとする。

農業を汚いとするものは、淨化美化作用の貴さを知らぬ阿呆者なりとする。

農業は經營さへよくば、凡ゆる職業中最も貴く最も必要で且つ趣味あるものであるは間違ひないことである。

農道説語終

昭和五年七月八日印刷		昭和五年七月十三日發行	
【定價金一圓五十錢】		(送料十錢)	
著者	山崎延吉	發行者	東京市神田區小川町四十一番地 伊藤巳之助
印刷所	東京市神田區表神保町十番地 泰文館印刷所	發行所	東京市神田區小川町四十一番地 泰文館書店
電話 神田區 四四九六番		電話 東京 六七六〇三番	





藥師寺健良著

# 農村社會學

四六版五百頁  
リネット特製  
定價五圓五拾錢  
送料十二錢

一、農村社會に繼起する諸種の社會問題及び社會現象は社會自體が醸し出す社會の姿なのである。だからそれらの問題を解決するとか農村を復興するとかの問題は、農村社會自體の姿と、その中に流る、根本の原則とを正視し探求しその因と進行形とを悟らねば判らない。それらの導きをなすのが社會學である。

二、併し社會學は従來多く社會學者のみの領域に長く放置され唯、理論的な架空の學であるか、或る如く考へられ一般民衆との接觸を缺いてゐた。學であれど社會學は社會學者の専有物や玩弄物ではない。社會人そのもの、大衆の故に吾人は之を學者の手より社會大衆の手に引展さんかのために、本著の村に送りたいと思ふ。

三、故に本著の目標は、親愛なる農村社會民衆にある。即ち本著は社會學立場から農村を觀察し、農村社會現象及び大勢を解剖し、而して農村社會の進歩のべき軌道を示したものであつて一般農村社會に生活する、人々の好参考書好伴たるを失はない。本著によつて農村社會の正體を高めその趨きを窺ふことを知つて貰ひたい。

四、農村を愛し、導か、立場にある官吏、教育家、宗教家、技術者、社會教育に各種團體、學校等に於ては是非共この一著を精讀されん事をお勧めする。更に

發行所 東京 市神田區 小川町一三〇 泰文館書店

山形縣 農林主事 鈴木富治著

# 農村の副業

四六列ホブリ  
定價二圓三十錢  
送料十二錢

農村が日に／＼疲弊して行くと言ふ、如何なる理由に基くか、農村を構成する農家經濟が極限まで行詰つてゐるからだ、舊時代の單式な農業經營の中に眠つて覆式による農業經營に無關心だからだ、農家に於ける余剰勞力の合理的分配と現金化の二つによつて現下の勞れた農村を救済する外に途がない、されば周期的に生ずる勞力の分配は副業に注ぐことによつて最も完全に消化される。一村或は一家の副業の振興はよくその村を生かすその家を富ます、然らば如何なる所に如何なる副業が適するか………云ふことを示したものは即ち本書である。殊に著者は副業の理論に實際兩方面の指導研究に没頭すること茲に多年、その説く所懇切詳細、その記述する所平易豊富、將に本書は副業に関する書中全くその類を異にし鷄群の一鶴を思はしむる最近の絶好書で農家繁榮の案地を招來する唯一のパイロットである。

發行所 東京 市神田區 小川町一三〇 泰文館書店

農 業 教 授 資 料

最新刊

神戸昌平著 ▼ 趣味と實益との横溢 ▲

農業界之現象 耕種篇

全一冊  
菊列英本  
定價二圓  
送料十二錢

- 一、現今農業に關する著書も亦いはゆる汗牛充棟言ならざるの狀態であるが、農業界の現象を平易簡明に説述せるものは殆んど皆無といつても過言でない。然るに本書は趣味と實益とを兼ね備ふるが如く、多年實際に親しめるの經驗と諸學者の新研究とを發表してこの缺を補ひたるものである。
- 二、本書の内容は汎く農業に従事せらるゝ士の參考と農業知識の増進とに資すべきものが少なくないが、殊に農業教育の實際に當らるゝ教師の資料に恰適すると共に、一般農業研究者の座右に缺くべからざる良書である。
- 三、本書は主として耕種界に關する作物の改良種苗の育成管理收穫の實際より食糧問題などに至るまで、廣く各般の事項に基いて縱横に説述せるものであるが、引續いて土壤肥料篇、畜産篇を刊行して之が完結を告ぐるのである。

發行所 東京市神田區小川町四三三 泰文館書店

石田傳吉著

地方青年の覺醒

地方革新の重大任務は諸君の肩上に懸れり  
重いかん青年諸君の任務奮起せよ青年諸君

四六版總カナ  
定價製金美二  
送料圓本付

千五百秋瑞穂國の名に立てる我大日本帝國は、其名に示す如く古來農を立國の本として立ち來つて居る而も今後亦人類生活上に異常なる大變化のない限りは永遠にてこれを國本として行かねばならぬ。況や現在の國情に於てをや、然るに之を現下の實際に徴する時、我國の農村生活をして此事に果して遺憾なき實情を保ちつゝあるであらうか。これは敢て具眼者を俟つまでもない。日夕吾等が苦き經驗に依つて實際を知りつゝあるのである。我國の現在改善すべき急務幾十たるを知らずと雖も其特に急を要するもの正に農村の革新より甚だしきはない。本書の著者は從往十數年に亘りて親しく學理と實地とに依つて切々の研鑽を積まれた熱血愛國の士である。然も地方青年に溢るゝばかりの同情と理解をもつ著者は、刻下の大問題たる農村革新のために地方青年奮起の急務なることを醒めさせられたる愛國愛村の結晶である。敢て地方青年者の清讀を俟つ。

發行所 東京市神田區表町三三三 泰文館書店

賜 天 覽

理想的 農業國

高橋是清題字 三士忠造題字 上塚 司著

**デンマーク土産**

四六版洋装 定價金一圓 送料八錢

北歐の一小國丁抹は理想的の農業國として世界に謳歌されて居る。従つて人も吾も其國の内容を知らうとして居るが、從來丁抹を紹介した著書は或は繁に失し、或は簡に過ぎて要點を知るに不便であつた。然るに本書の著者上塚氏は衆議院議員として萬國議員會議に列席のため丁抹に渡り、親しく此の理想國を視察し何人にも容易に理解し得たるやうに、所謂丁抹みやげとして我が農村に提供して呉れたものである。著者は農林大臣秘書官とし、或は商工大臣秘書官とし、或は大藏大臣秘書官として國家の重要産業政策に關與しつゝある前途ある少壯代議士である。以て本書の價值の一般を知る事が出来やう。丁抹を知らんとするの士は速かに一書を座右に備へなければならぬ。

發行所 東京市神田區小川町一三〇 泰文館書店

小林 水楊 著

**農村文化と教育**

四六判リネット 定價金壹圓 送料十錢

黎明期である可き現在の我が農村は、獨力に富む計画的な産力のある生業に對して飽く迄も誠意のある努力的人物を要求して居る。而して清新なる希望に満ち絶えず向上して行く所の眞の農村文化は斯る人物に依つて建設されて行く。堅實なる、よき農村文化の建設は目下の急務である。人間の改良が總べての改良の出発點にして又到着點である意味に於ても農村不振の今日農村教育者としての使命は果して奈邊に有るか！

本書は農村の小學校教育、實業補習學校、地方に於ける農業學校、師範學校、中學校、高等女學校の教育に對して何を考慮の中心となす可きかを如上の教育觀より之を批判し更に一般文化の建設上の問題を考究したるものである。眞に農村の現況を憂ひ、而して力ある農村教育を爲さんとする人々に一讀を奨めた

發行所 東京市神田區小川町一三〇 泰文館書店



三重縣高等農林學校長 上原 種美 閣  
三重縣名賀農學校々長 谷本龜次郎 著

### 生理的多農產物增收法

(農產物增收農家致富の秘術)

四六版洋綴美本  
定價金八十五錢  
送料 八 錢

一、本書は農業生産方面に於ける科學的增收法の根源を研究し之を生産技術に應用せんとするものにして一般新進農業者は勿論農學校學生實業補習學校生徒、農業教師農業技術員等の必讀好參考書として座右に缺くべからざる頁書である。  
一、本書は生産學的見地より作物家畜の本能を研究し一貫せる生物生活の理法を闡明にして生物の本能を操縱し水を低きに導くが如く生物各自の自發活動力によつて發育繁殖を促し以て容易に且完全に農業の生産を増加せしむる處の秘術を説明したるものなり。  
一、本書は一讀よく農業生産技術の核心に觸れ複雑多岐なる農學の奥義を簡易明晰且徹底的に理解して眞に少費多獲の實を擧げ以て農家致富の秘訣を發しこの行詰れる農業を根本的に改善せんとする唯一無比の良著たるを疑はず

發行所 東京市神田區小川町四十一番三 泰文館

中山文一 著

### 最新刊 蔬菜栽培要訣

四六版ポブリン  
定價金一圓  
送料 八 錢

蔬菜に關する著書は頗る多いが實際栽培に役立つ記事は何れも總頁數からいへば極僅かしか書いてない、作物の來歴や性狀やは學術研究者には必要であらうけれども直ちに技術に應用しやうとする農家子弟の持つには適して居ない。しかも其の價は數圓乃至十數圓もするのである。著者中山先生はこれを遺憾とせられ重要蔬菜二十八種に就き其の栽培の肝心要のところが即ち栽培の要訣のみを編述せられたのである、谷本先生は其の序文の一節に「世上普通の栽培書と其の著眼を異にし精練されたる技術上の要訣を親切なる筆致を以て盡して居るところ實に敬意を表せざるを得ないのである」といはれて居る。  
本書の内容右の如くであるから農村青年を始め一般農學校專門學校生徒、町村技術員、農業教育家、文檢受驗者の座右に欠くべからざる近來稀に見る好著であつて本書一冊を手に入れば數十金を費して數種の參考書を購讀するより遙に勝るの利益あることは斷じて疑はないのである。尙本書の巻末には九篇に亘る蔬菜栽培上必要な事項が記されてある。乞ふ速に一本を求められん事を。

發行所 東京市神田區小川町四十一番三 泰文館

岩谷愛石著

人生問題の解決 **吾等は何の爲に生きて居るか**

四六版三百頁 定價金壹圓參拾錢 送料八錢

著者は二十年前全國青年婦女の指導者として、實踐躬行、汎ゆる艱難辛苦を體驗し、人生の苦闘を切り抜けて來た、其惡戦苦闘の汗の結晶、涙の記録を人生問題解決の一書の中に收めて、「人はパンのみにて生きるものにあらず」と幾多聖哲の人生問題解決の眞髓を説き、神、佛、儒、の人生觀を説き、或はマルクスの唯物主義を説き、サンシモンやコントの實證主義を説き、ミルやヘンダンの功利主義を説き、カントの人格主義、メルゲソンの生命主義、オイツケンの子秘主義等を網羅し、靈魂の不滅と、信仰の確立、人生究極の目的等々最も明確、且つ徹底的に説破してある。思想界混亂の今日、迷える現代國民、殊に青年婦女の前途に一大光明を與ふるものは本書の他に無いと信するのである。

致て全國青年團處女會員、學生、教育者、其他汎ゆる階級の人々に一讀をすすめます。

發行所 東京 市 神田區 小川町一三 泰文館書店

岩谷愛石著

**我等は何を爲すべきか**

四六版リンネット 洋裝箱入 美本 定價金壹圓五拾錢 送料十錢

人生は戦の世界である。惡戦苦闘は、吾等が生るるや、既に天より學べられたる試練である。吾等は此天の試練に堪へ忍び之に打ち克ち闘つて行く、そこに人生の價値があり、人生の意義があると思ひます。本書の著者は全國青年指導者として既に二十年間、凡ゆる苦闘を體驗し、凡ゆる困難と戦つて來た、その汗の記録、血と涙の體驗苦闘談、一言一句悉く吾等處世の活教訓ならざるはない。殊に「一日一善」「一事實行」「時間の活用」「貧乏退治」は、現代社會の思想動搖、生活不安の今日に於て如何に大なる光明と希望と幸福とを與ふるであらうか。「日曜百姓梅原育二君の努力の生活」「模範青年河本喜久一君の親子の涙物語」吾等は、本書一冊に依つて如何に大なる感激と、教訓と光明と歡喜と希望を與へらるるかと思ふとき、滿天下五百萬の青年男女諸君は申すに及ばず、世の青年指導者教育者は素より、凡ゆる階級の人々にセヒ本書の一讀を勧めたいと思ひます。

發行所 東京 市 神田區 小川町一三 泰文館書店

農學博士佐藤寛次監修各専門大家編纂

受驗  
参考

### 綱要農業叢書 廿四卷

三六版リネット  
洋装 函入美本  
定價金一圓ツ、  
送料六錢ツ、

- 第一編 農業經濟政策論 第二編 農業汎論 第三編 栽培汎論
- 第四編 普通作物栽培學 第五編 工藝作物栽培學 第六編 蔬菜園藝
- 第七編 土壤學 第八編 肥料學 第九編 果樹學
- 第十編 養蠶學上 第十一編 養蠶學下 第十二編 桑樹栽培學
- 第十三編 作物病理學上 第十四編 作物病理學下 第十五編 作物害蟲論上
- 第十六編 作物害蟲論下 第十七編 畜産學 第十八編 農産製造學
- 第十九編 農具學 第二十編 農業氣象學 第二十一編 林學汎論
- 第二十二編 農業土木學 第二十三編 花卉學 第二十四編 作物育種學

右の内太文字(ゴザツク)は發行済、他は引續き發行します、  
分賣致します。

發行所 東京市神田區小川町一三〇番 泰文館書店

辯護士  
法學士 並木信政 著

### 願書式大成 附民法講義

四六版五百四十頁  
リネット上製  
定價金一圓五十錢  
送料 十二錢

本書は日常身邊に起つて來るべき貸借、賣買、讓渡、質入、抵當、請負、履借登  
記、戸籍、寄留、兵事、營業、出版、納税事項、民事、刑事、訴訟及び人事訴訟  
手續等に関する證書、願書、申請、申立、訴狀並に添附書、類の書式を極めて明  
瞭に何人にひ利用し得るやうに集録してあります。

世の中が複雑になり、人の生活が多忙になればなる程この種の輕便な指導書が必  
要である。複雑な社會を單純化し、事業の能率を増進する上から何れの家庭に  
も本書一部を備へられたし。

發行所 東京市神田區小川町一三〇番 泰文館

雲州流 春秋園方圓 共著  
音樂院 奧宮素堂

# 茶の湯・盆石作法

## 附 香道・造花・音樂

菊判金文字美本  
定價金一圓八十錢  
送料十二錢

茶道の精神は和敬清寂の四字にあります。つまり精神の修養であり、心身の鍛練であります。茶道をやつてゐれば、邪念も煩悶も自然となくなつて安心が得られるのであります。

又娛樂を云ふことについても、高尚なものもあれば下卑たものがあります。人格を高めるにはどうしても高尚なものを選ばねばなりません。本書は茶の湯を主として説き、加ふるに高尚なる娛樂——盆石・造花・香道・音樂——を從として平易懇切に述べてありますから、紳士淑女方の好讀物として推賞すべく又家庭には是非一冊を備へねばならぬといふ極めて權威あるの良書であります。

發行所 東京市神田區小川町一三〇六 泰文館書店

小笠原流 禮法師範 小平久馬先生著

# 日本婚禮式附一般禮式

菊判金文字  
洋裝美本  
定價金二圓  
送料金拾錢

禮は人間總ての行爲の本であります。若し人間として禮儀がなければ禽獸と異なる事があります。我が國は古來君子國と稱せられ、最も禮儀正しきを以て名がありました。故に其の國民一般の風俗は極めて純良優美でしたが、近頃歐米諸國の惡風に倣はんとする傾向がありますのは甚だ憂ふべきの大事であります。その輕佻浮薄の風を學ぶを慨嘆せられた、禮法の泰斗小平先生、貴賤上下を通じて一般の婦人が平生行ひ守るべき禮儀を細大漏らさず繕述せられ、殊に婚禮式を主として平易懇切に解説したれば所謂總ての禮法は本書に依つて何等遲疑なく知るを得ると云ふ極めて至便の書であります。本文五號總振假名附きですから、誰人も容易に讀め、而して要點を知ることは易々たるものであります。江湖には是非一本を御薦め致します。

發行所 東京市神田區小川町一三〇六 泰文館書店

文學士八住利雄譯著  
關口晃南譯著

四六版列金文字  
洋裝美本

各卷定價金貳圓  
各送料金十二錢

受驗  
參考

原文シエクスピール研究  
卷四全

第一卷 ハムレット ガエニスの商人 テムペスト  
 第二卷 マクベス シムベリン 冬物語  
 第三卷 オセロ リヤ王 から騒ぎ  
 第四卷 ロメオとジュリエット 眞夏の夜の夢 間違の喜劇じやく馬馴し

近刊 全世界の紙價を沸騰せしめた大文豪シエクスピールは、ストラットフォード、  
 オンアボレンに孤々の聲を響け世界的の大文豪となつた。大英國の陸地は假令海底  
 に沈むとも我が沙翁の名は永遠に残らむ」と迄英人をして誇らしめて居るシエ  
 クスピールの大傑作は、今更その内容價值を論ずるまでもあるまい、此の沙翁劇は  
 ラムの譯書が一番通俗平明であると云つても、英文學研究者にとつて所々難解の  
 文あり句がある、本書は此のラムの原文を邦譯研究せるものにして原文と譯文を  
 對照的に並列し次に難解なる文法と文章の構成解剖を最も平易に忙釋せり、學  
 期試験及高等學校專門學校入學受驗準備に忙殺されて居る時、蓋し學生諸君の好  
 侶伴である是非共一本を備へられよ

發行所 東京市神田區小川町一三〇泰文館書店



終

